

通信機は **スタンダード**



C500

VHF/UHF
ハンディートランシーバー

日本マランツ株式会社

取扱説明書



このたびは、モデル C500 ^{ダブル} W-Band
VHF/UHF ハンディートランシーバーをお
買上げいただきまして誠にありがとうございます
ます。

本機は、当社の厳重な品質管理及び検査の
もとに生産、出荷されておりますが、万
ご不審な点、お気付きの点などがありまし
たら、なるべくお早目にお買上げいただ
いた販売店あるいは弊社営業所、サービスセ
ンターへお申し付けください。

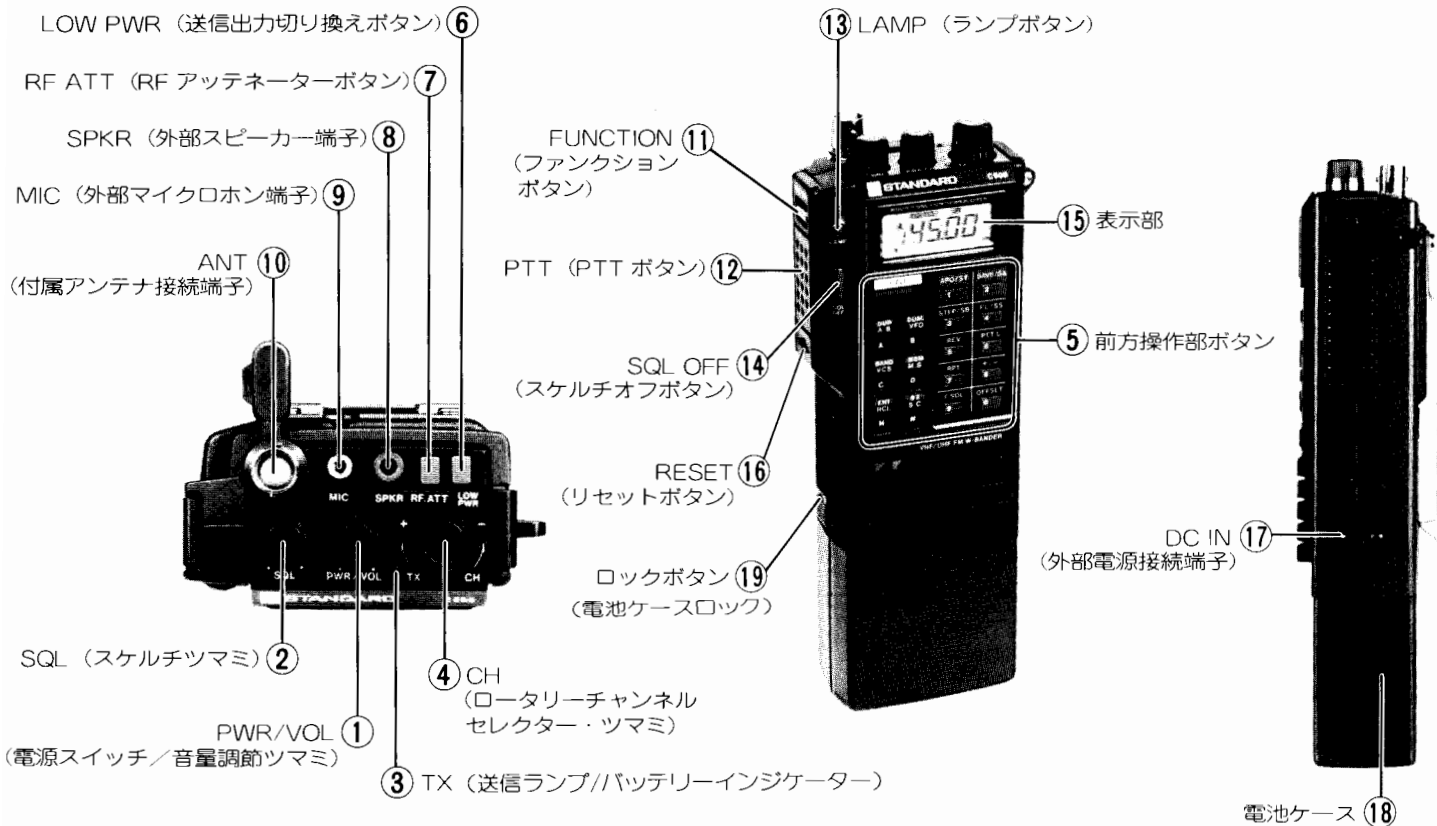
本機の性能を十分に発揮し、末永くご愛用
いただくためにご使用の前に、この取扱説
明書を最後までよくお読みくださるようお
願い致します。

目次

各部の名称	2
ご使用の前に	3
梱包図	3
アクセサリ	4
特長	4
操作手順	7

操作方法	9
前面操作部ボタンの働き	9
①VFOを切り換える方法(A/[DUP]A,Bボタン)	10
②送信受信周波数を変える	10
③バンドの選択の方法(C/[BAND]VCSボタン)	12
④433.00又は145.00MHzを優先的に呼び出す方法(CALLボタン)	12
⑤周波数を記憶させる方法(*/[ENT]RCLボタン)	14
⑥メモリー周波数の呼び出し方法(*/[ENT]RCLボタン)	15
⑦メモリー周波数をVFOに書き込む方法(#/[BZ]S.Cボタン)	16
⑧書き込まれているメモリー周波数を変更するとき	16
⑨書き込まれているメモリー周波数を消去するとき	17
⑩オフセット周波数の設定(O/OFFSETボタン)	18
⑪スキャン動作	19
■ビジースキャン、ポーズスキャンの切り換え	20
①ダイヤル周波数スキャン動作	20
②メモリースキャン動作	23
⑫デュアルワッチ機能(B/[DUAL]VFOボタン)	27
⑬デュプレックス交信機能(A/[DUP]A,Bボタン)	30
⑭オート/パワーオフ機能(1/APO/S▼ボタン)	31
⑮バッテリーセーブ機能(2/SAVE/S▲ボタン)	32
⑯チャンネルステップ切り換え機能(3/STEP/SBボタン)	33
⑰PTTボタン操作を無効にする機能(6/PTT.Lボタン)	34
⑱レピーター(7/RPTボタン)	35
⑲田/田シフト切り換え(8/+/-ボタン)	36
⑳レピーター運用時に送受信周波数を入れ換える機能 (5/REVボタン)	36
㉑周波数ロック機能(4/F.L/SSボタン)	37
㉒トーンスケルチコントロール機能(9/T.SQLボタン)	37
㉓プザー音を消す機能(#/[BZ]S.Cボタン)	40
㉔空きチャンネルを自動的に探し出すVCS機能 (C/[BAND]VCSボタン)	40
レピーター運用	45
便利な使い方	47
各部の名称と動作	48
リチウム電池について	51
運用にあたって	51
故障とお考えになる前に	53
定格	54
保証・アフターサービスについて	55
申請書の書き方	56

各部の名称

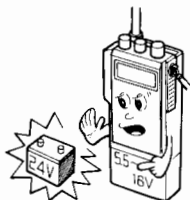


・動作については、48ページを参照してください。

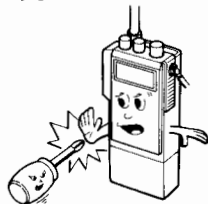
- 1 乾電池の \oplus \ominus をまちがわないでください。



- 4 24V では使えません。

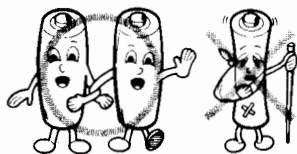


- 2 コアーやトリマーに手を触れないでください。最良の状態に調整されています。

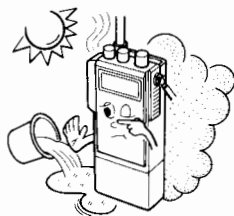


- 5 古い電池と新しい電池をまぜて使用しないでください。

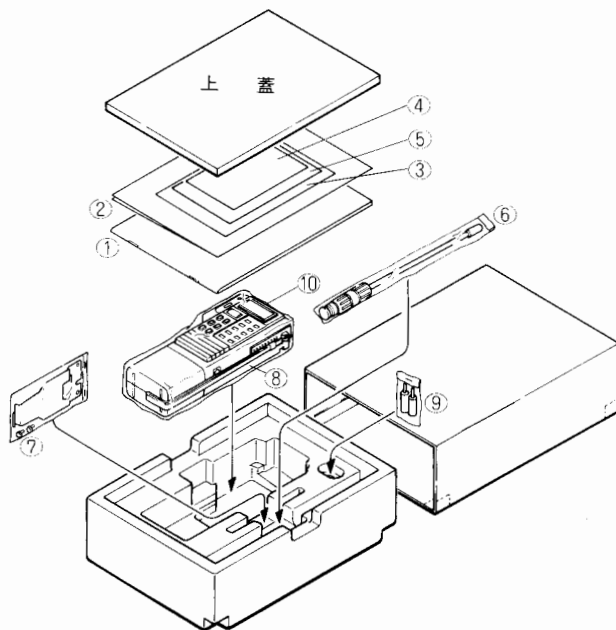
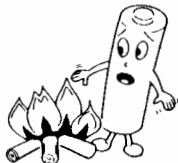
使用できる電池は——
 ・SUM-3マンガン電池
 ・ニッケル・カドミウム電池



- 3 高温、多湿やほこりの多い場所は避けてご使用ください。



- 6 使用済み電池は、火の中などに入れないでください。



付属品

- | | |
|-----------|------------------------|
| ①取扱説明書 | ⑦ベルトクリップ
(止めネジ2本含む) |
| ②回路図 | ⑧ハンドストラップ
(本体取り付け済) |
| ③保証書 | ⑨2.5φ、3.5φプラグ |
| ④営業所一覧表 | ⑩防水キャップ
(本体取り付け済) |
| ⑤愛用者カード | |
| ⑥ホイップアンテナ | |

アクセサリ

本機をより楽しくご利用して頂けるよう豊富なアクセサリが用意されています。

アクセサリの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

CNB 111	: リチャージャブルバッテリーパック
CNB 120	: ハイパワーリチャージャブルバッテリーパック (5W 用)
CNB 121	: ロングライフリチャージャブルバッテリーパック
CSA 111	: デスクトップチャージャー (急速)
CWC 120	: AC チャージャー (CNB 120 装着時使用)
C10/120-1	: AC チャージャー (CNB 111, CNB 121 装着時使用)
CMC 01	: モービルチャージャー (CNB 111, CNB 121 装着時使用)
CAD 111	: チャージアダプター
CAW 120B	: モービル用電源ケーブル
CMP 111	: マイク&スピーカー
CHP 111	: PTT 付ヘッドセット
CMB 111	: モービルブラケット
CLC 500	: ソフトケース (CNB 111 装着時使用)
CLC 501	: ロングサイズソフトケース (CNB 120, CNB 121 装着時使用)
CTD 500	: タッチトーンユニット
CTN 500	: トーンスケルチユニット

特長

- ☆ キーボード及びロータリーチャンネルセクターで周波数を設定することができます。
- ☆ 余裕の5W
ハイパワー用リチャージャブルバッテリーパック又は外部電源13.8Vを使用すると144MHz帯430MHz帯共に5W以上の送信出力になります。
- ☆ 車の電源がそのまま使用できます。
使用電圧範囲は5.5V~16Vですので、車の電源がそのまま使え大変便利です。
- ☆ 電源スイッチの切りやすれに対応しました。
スイッチを切りやすれでも消費電流を4mA程度におさえるオートパワーオフ機能を採用しました。
- ☆ 受信待受時の電池の消耗をセーブするバッテリーセーブ機能を採用しました。9段階のセーブ機能を選択することができます。
- ☆ 自動的に空きチャンネルを探し出しかつ簡単に探し出した空きチャンネルにQSYできるV.C.S.機能を採用しました。

☆ 各種デュアルワッチ機能内蔵

①ダイヤル周波数と次の各周波数との2波をデュアルワッチします。

- メモリーアドレス番号1の周波数
- 任意のメモリー周波数
- 呼び出し周波数

②ダイヤル周波数とメモリ周波数を順次（最大10波）デュアルワッチをします。

☆ A、B 2つのVFOを内蔵しています。

☆ 20チャンネルメモリー可能

A、B-VFOに各10チャンネルのメモリーを装備しました。各メモリーは144 MHz 帯430 MHz 帯自由にどちらでもメモリーすることができ、さらにリピータ動作のON/OFFをメモリーすることができます。

RPT 運用時 A、B のメモリーアドレス番号1にはさらにオフセット周波数、トーン周波数をも単独でメモリーすることができます。

☆ デュプレックス機能を採用しました。

A、B 2つのVFOまたは、メモリー周波数間でセミデュプレックス交信をすることができます。さらに145 MHz 帯と430 MHz 帯の間ではフルデュプレックス交信をすることが可能になり、電話のように送信しながら受信することが可能になります。

☆ 書き替え可能な呼び出し周波数をワンタッチで選択できるコールボタンを装備しました。

☆ ファンクションボタンと組み合わせるとロータリーチャンネルセレクターが100 KHz ステップになります。

☆ 多彩なスキャン機能

ポーズスキャン、ビジースキャンの2方式を選択することができます。

①ダイヤル周波数でのスキャン動作は、

- 1 MHz スキャン
 - オールスキャン
 - プログラムスキャン
- の機能があります。

②メモリー周波数スキャンでは、

- A-VFO メモリースキャン
- B-VFO メモリースキャン
- オールメモリースキャン
- MSM メモリースキャン

の機能があります。

☆ ローターチャンネル・セレクターで、周波数セレクトの
できるトーンスケルチユニットを内蔵することが可能です。

☆ ワンタッチでスケルチを一時オフさせるスケルチオフ機
能をとりいれました。

☆ 設定した状態がまちがって変わってしまわないようにす
る周波数ロック機能をとりいれました。

☆ バックの中で誤って送信状態にならないようにする PTT
ロック機能をとりいれました。

☆ このクラスで一番小型軽量

寸法：173mm（高さ）×60mm（幅）×34mm（奥行き）

（突起物を除く）

重さ：490 g

☆ 高感度設計12 dB SINAD

VHF -16 dB μ （JAIA 測定法）

UHF -16 dB μ （JAIA 測定法）

☆ RF アッテネーター機能を内蔵しました。

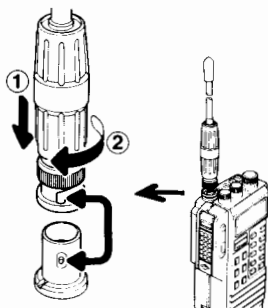
☆ 豊富なオプションをそろえています。

（スタンダード・ハンディシリーズ共通）

☆ レピーターのリモートコントロールなどに便利なDTMF
ユニットを内蔵することが可能です。

操作手順

- 1 付属のアンテナを取り付けます。

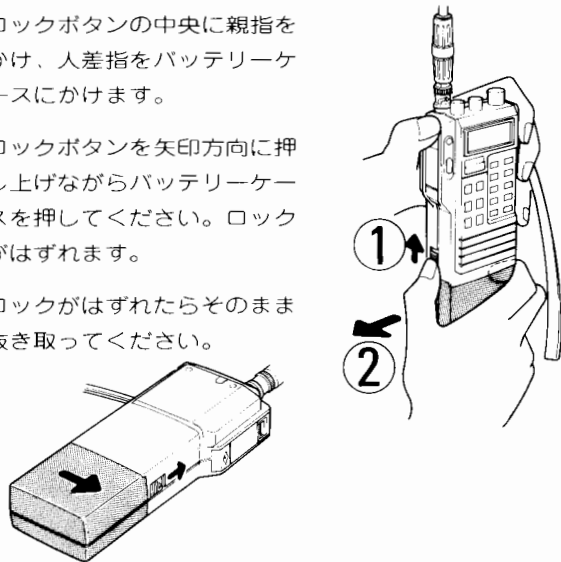


- 2 バッテリーケースを本体よりはずしてください。

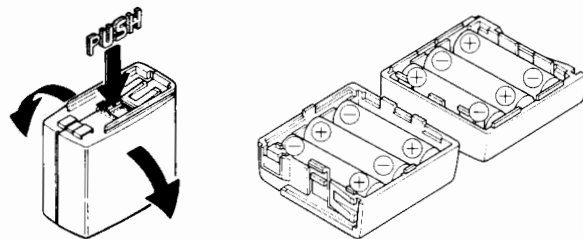
Ⓐ ロックボタンの中央に親指をかけ、人差し指をバッテリーケースにかけます。

Ⓑ ロックボタンを矢印方向に押し上げながらバッテリーケースを押ししてください。ロックがはずれます。

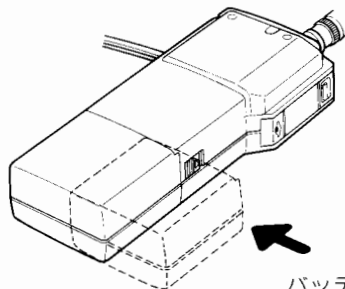
Ⓒ ロックがはずれたらそのまま抜き取ってください。



- 3 単三乾電池をバッテリーケースに入れてください。
乾電池の極性をまちがわないように注意してください。



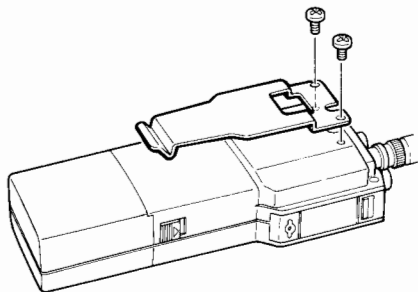
- 4 単三乾電池を入れたバッテリーケースをC500に装着します。



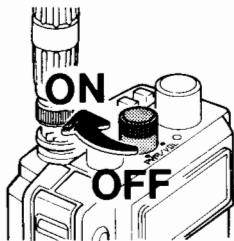
バッテリーケースを装着するときは、バッテリーケースとC500の溝を合わせカチッと音がするまで押し込んでください。

5 ベルトクリップをC500に取り付けます。

注意 付属以外のビスは絶対使用しないでください。

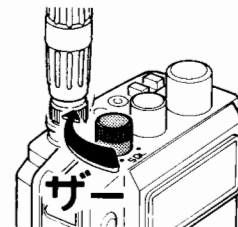


6 電源スイッチを ON にし音量調整つまみで適量の音量にします。

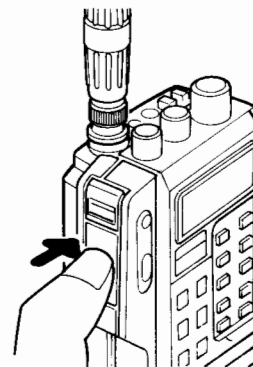


7 SQL (スケルチ) ツマミをゆっくり回してゆき、スピーカーよりザーという音が聞こえなくなるところで止めます。

注意 時計方向に回しすぎると弱い電波が受信できなくなります。



8 PTT ボタンを押すと送信に、離すと受信状態になります。



操作方法

前面操作部ボタンの働き

前面操作部のボタンで各種動作を行ないます。

各種動作が正しく操作されると、ピッというブザー音で知らせます。

ボタン操作を誤るとブーというブザー音で知らせます。

詳細は各項目の説明を参照してください。

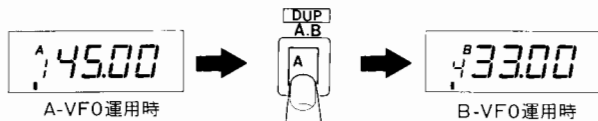
ボタン名	FUNCTION ボタンを押さずに押したとき	FUNCTION ボタンを押しながら押したとき
CALL	呼び出し周波数の呼び出し	—————
A/[DUP]A/B	A、B VFO の切り替え	デュプレックス動作の ON/OFF
B/[DUAL]VFO	VFO の呼び出し	デュアルタッチ動作の ON/OFF
C/[BAND]VCS	VCS 動作	VFO の周波数帯 (145 MHz、433 MHz) の切換え
D/[MSM]M/S	メモリスキャン動作の ON/OFF	メモリー周波数の MSM の設定 MSM スキャンの設定
*/[ENT]RCL	メモリー周波数の呼び出し	メモリー周波数の設定
#/[BZ]S/C	スキャン動作及びクイヤー	ブザー音の ON/OFF
1/APO/S▼	数字の 1 の入力 スキャン動作中は、低い周波数方向にスキャンします。メモリスキャンを深く	APO 動作の ON/OFF

ボタン名	FUNCTION ボタンを押さずに押したとき	FUNCTION ボタンを押しながら押したとき
2/SAVE/S▲	数字の 2 の入力 (スキャン動作中は、高い周波数方向にスキャンします)	SAVE 動作の ON/OFF
3/STEP/SB	数字の 3 の入力 (スキャン中：ポーズ・ビジースキャン動作の切り換え)	周波数ステップの変更
4/FL/SS	数字の 4 の入力 ●VFO スキャン中：1MHz スキャンとオールスキャン又はプログラムスキャンの切換え ●メモリスキャン中：A または、B メモリスキャンとオールメモリスキャン動作の切換え	周波数ロック動作の ON/OFF
5/REV	数字の 5 の入力	レピータ動作における送信周波数と受信周波数の反転
6/PTTL	数字の 6 の入力	送信禁止動作の ON/OFF
7/RPT	数字の 7 の入力	レピータ動作の ON/OFF
8/+/-	数字の 8 の入力	レピータ動作時のオフセット周波数の十側又は一側への設定
9/T.SQ	数字の 9 の入力	トーンエンコーダーとトーンスケルチ動作の切り換え
0/OFFSET	数字の 0 の入力	オフセット周波数の設定

1 VFOを切り換える方法 [A/DUP A, Bボタン]

C500は A-VFO、B-VFO の2つの VFO を内蔵しています。
工場出荷時には A-VFO に145.00MHz、B-VFO に433.00MHz
が初期設定されています。

A/ [DUP] A、B ボタンをくり返し押すと A、B-VFO が交互
に切り換えられ表示部に“A”又は“B”が表示されます。



アドバイス

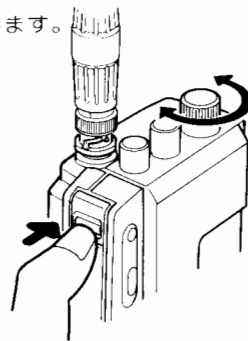
- 呼び出し周波数又はメモリー周波数を呼び出しているときに A/ [DUP] A、B ボタンを押すと、呼び出し周波数又はメモリー周波数の A、B が切り換わります。
- FUNCTION ボタンを押しながらこのボタンを押すと、デュプレックス動作になります。(30ページ参照)

A-VFO を144MHz 帯で、B-VFO を430MHz 帯でのご使用を
おすすめします。

なお、以後の各種説明は、A-VFO を144MHz 帯、B-VFO を
430MHz 帯として説明します。

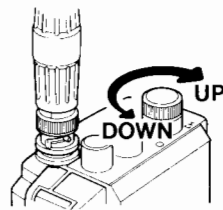
2 送信受信周波数を変える

- ① ロータリーチャンネルセレクター・ツマミで行なう場合
ロータリーチャンネルセレクター・ツマミを回して周波
数を設定します。
周波数は10KHz ステップで変化します。
又、FUNCTION ボタンを押し
ながらロータリーチャンネルセ
レクター・ツマミを回すと
100KHz ステップで周波数が変
化します。



手順

- ロータリーチャンネルセレクター
ツマミを時計方向 (↻) に回すと
周波数が UP し、反時計方向
(↺) に回すと周波数が DOWN
します。



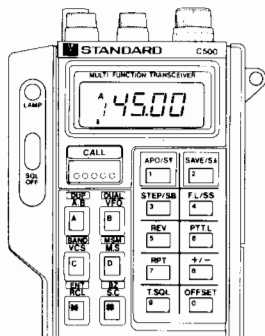
アドバイス

本機では、チャンネルステップを5、10、12.5、20、25、50kHzの6段階に設定することができ、出荷時は10kHzになっています。なお、チャンネルステップの変更方法は33ページを参照ください。

② キーボードで行なう場合

FUNCTION ボタンを押しながら、C/[BAND] VCS ボタンを押して、バンドの選択を行ないます。

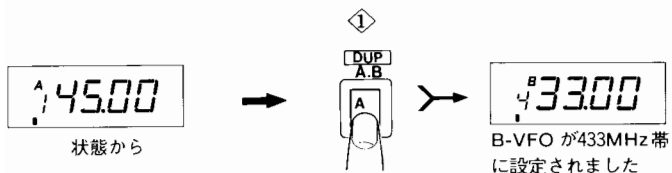
次に数字ボタン(0~9)を押して希望する周波数に設定します。



手順

例：432.80MHz に設定する場合

◇BAND の設定……B-VFO にします。



◇MHz 台の設定……数字“2”を押します。

432. が表示されます。

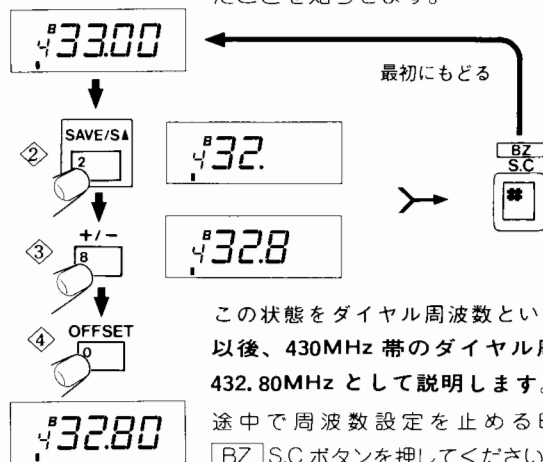
◇100kHz 台の設定……数字“8”を押します。

432.8が表示されます。

◇10kHz 台の設定……数字“0”を押します。

432.80が表示されます。

3つの数字を押し終わるとピーという長いブザー音がして周波数が設定されたことを知らせます。



この状態をダイヤル周波数といいます。以後、430MHz帯のダイヤル周波数を432.80MHzとして説明します。

途中で周波数設定を止める時は#/[BZ] S.C ボタンを押してください。数字ボタンを押す前の周波数にもどります。

アドバイス

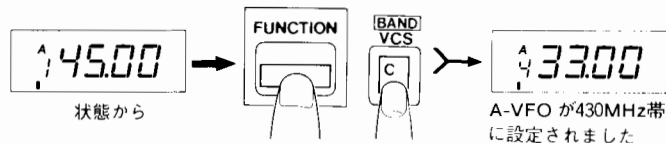
BAND の設定が必要のない場合は、手順◇より周波数の変更を行ないます。

3 バンドの選択の方法 【C/BAND VCSボタン】

144MHz帯または、430MHz帯へと同一VFO内でバンドを切り換えることができます。

FUNCTIONボタンを押しながらC/BAND VCSボタンを押すと、押す前の周波数が144.00～145.99MHzの場合は、433.00MHzが表示され、430.00～439.99MHzの場合は、145.00MHzが表示されます。

ただし、この機能はVFOモードの時のみ有効となります。



アドバイス

A-VFO を144MHz帯、B-VFO を430MHz帯でのご使用をおすすめします。

4 433.00MHz又は145.00MHzを優先的に呼び出す方法 【CALLボタン】

CALLボタンを押すと呼び出し周波数が優先的に呼び出されます。

手順

A-VFOの状態ではCALLボタンを押すと145.00MHzが表示されます。

B-VFOの状態ではCALLボタンを押すと433.00MHzが表示されます。

もう一度CALLボタンを押すとCALLボタンを押す前の周波数が表示されます。



アドバイス

呼び出し周波数は工場出荷時にA-VFOは145.00MHz、B-VFOは433.00MHzに設定されています。

☆ 呼び出し周波数の設定方法

呼び出し周波数は任意の周波数に書き替えることができます。

手順

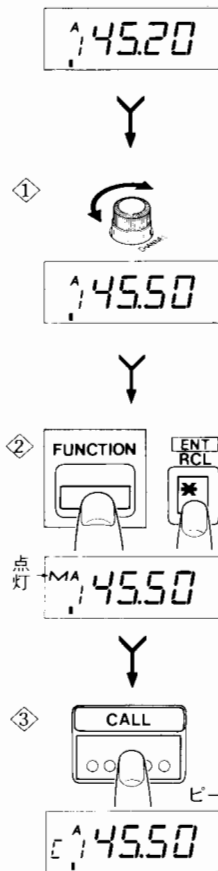
例：145.50に設定する場合 (A-VFO)

① 数字ボタンまたはロータリーチャンネルセレクトター・ツマミで周波数を145.50MHzにします。

② FUNCTION ボタンを押しながら * / [ENT] RCL ボタンを押すと、表示部の“M”が点灯します。

③ 次に CALL ボタンを押すとピーというブザー音がして書き替えが完了したことを知らせます。このとき表示は呼び出し周波数の呼び出し状態になります。

(①～③の操作で任意の周波数にできます)



5 周波数を記憶させる方法 [* / ENT RCL ボタン]

記憶回路に任意の周波数を20種類メモリーすることができ
ます。また、メモリーされた周波数の呼び出し、変更、お
よびスキャンなどが自由にできます。メモリーされた場所
をメモリーアドレス番号といい、A-VFOのメモリーアドレ
ス番号を、“A-M0, A-M1, ……A-M9” B-VFOのメモリーア
ドレス番号を“B-M0, B-M1, ……B-M9”と表わします。記
憶回路には周波数の他に、レピータ運用のON/OFF および
レピータ運用時のオフセット周波数のシフト方向がそれぞ
れ記憶できます。

手順

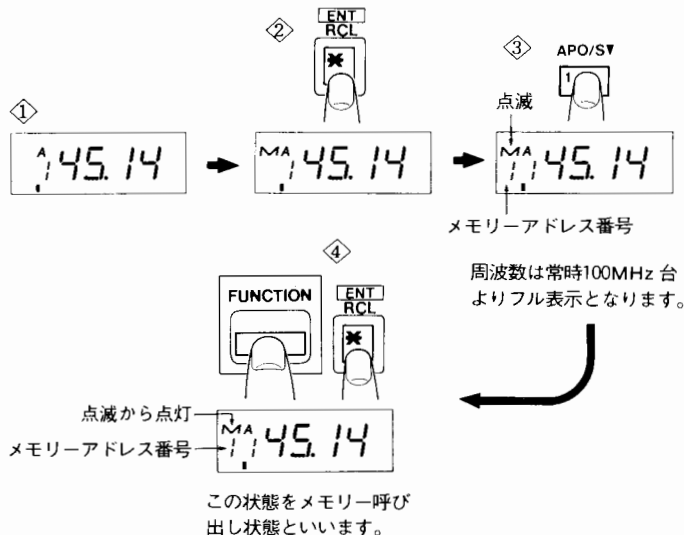
例：“A-M1”に145.14MHzをメモリーする場合

- ①メモリーしたい周波数145.14MHzをA-VFO状態で表示部
に表示させます。
- ②* / ENT RCL ボタンを押すと表示部の“M”が点灯します。
- ③メモリーアドレス番号“A-M1”を数字ボタン“1”を押して
呼び出します。表示部の“M”が点滅し、表示部にメモリー
アドレス番号が表示されます。

④FUNCTION ボタンを押しながら* / ENT RCL ボタンを
押すと、ピーというブザー音が生じて書き込みが完了したこ
とを知らせます。

このとき“M”が点滅から点灯に変わります。

この状態をメモリー呼び出し状態といいます。



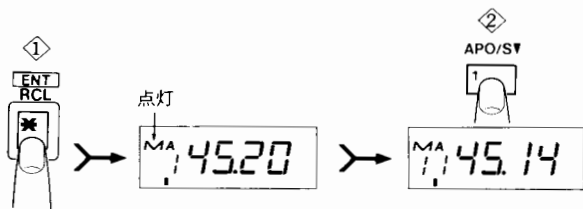
6 メモリー周波数の呼び出し方法 [* / ENT RCLボタン]

手順

例：“A-M1”を呼び出す場合

◇C500 を A-VFOの状態にして* / [ENT] RCL ボタンを押すと表示部の“M”が点灯します。

◇メモリーアドレス番号“A-M1”を数字ボタン“1”を押して呼び出すと表示部にメモリアドレス番号とメモリー周波数145.14MHzが表示されます。

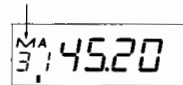


アドバイス

1. 続けてメモリー周波数を呼び出すときは、メモリー呼び出し状態で再度数字ボタンを押して、メモリーアドレス番号を指定してください。
2. メモリー呼び出し状態で、ロータリーチャンネルセレクトマミを廻すとメモリーアドレス番号を順次かえることができます。この場合、A、B-VFOの全てのメモリーアドレスを順次呼び出すことができます。
3. 指定したメモリーアドレス番号に周波数がメモリーされていない時は表示部の“M”が点滅して周波数がメモリーされていないことを知らせます。

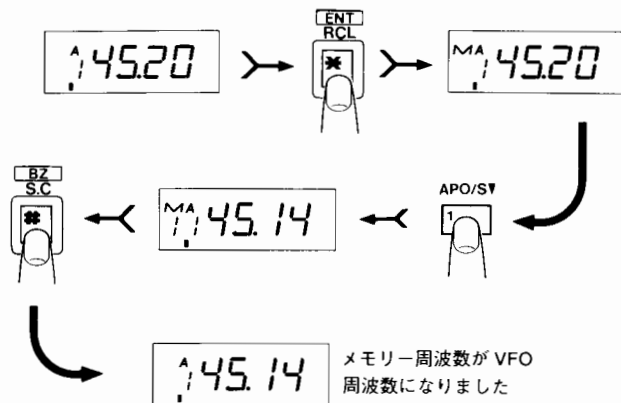
この時、表示されている周波数はダイヤル周波数となります。

メモリーされていない場合は、点滅します



7 メモリー周波数をVFOに書き込む方法【#/BZ S.Cボタン】

メモリー呼び出し状態のときに#/BZ S.C ボタンを押すとメモリー周波数などメモリー呼び出し状態の周波数がそのままダイヤル周波数状態にすることができます。(メモリーシフト)



アドバイス

メモリーシフトを行わないときはB/DUAL VFO ボタンを押してメモリー呼び出し状態を解除してダイヤル周波数状態にもどします。

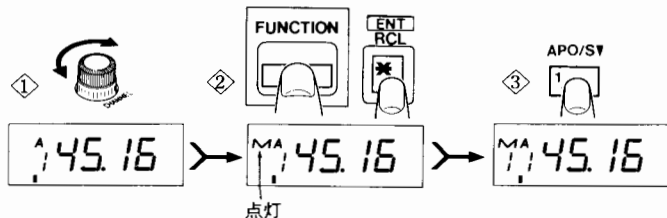
8 書き込まれているメモリー周波数を変更するとき

すでに書込まれているメモリー周波数に新しい周波数を重ね書きして前の周波数を消去し、新しい周波数に書き替えることができます。

手順

例：メモリーアドレス番号“A-M1”に記憶されている周波数145.14MHzを呼び出さずに“A-M1”の内容を145.16MHzに変更するとき。

- ◇ダイヤル周波数状態でロータリーチャンネルセクターつまみまたは、数字ボタンで新しい周波数145.16MHzに設定します。
- ◇FUNCTION ボタンを押しながら*/ENT RCL ボタンを押すと表示部に“M”が点灯します。
- ◇数字ボタン“1”を押してメモリーアドレス番号を指定します。ピーという長いブザー音がしてメモリー周波数の書き換えが完了しメモリー呼び出し状態になります。



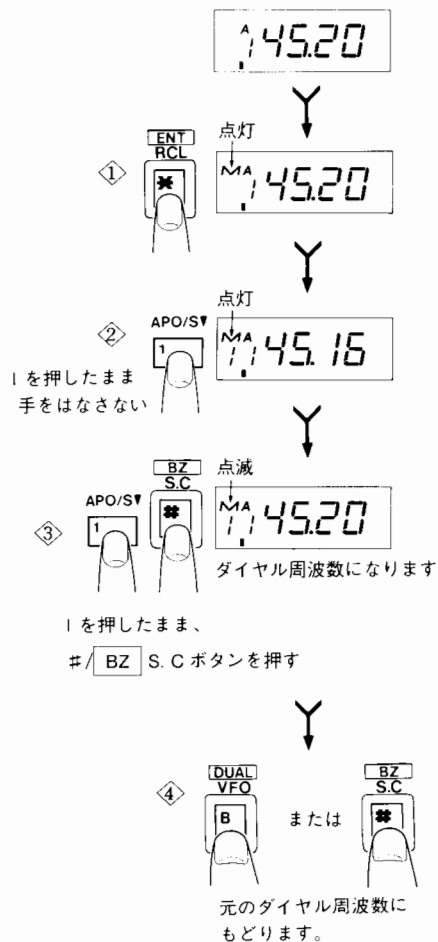
9 書き込まれているメモリー周波数を消去するとき

書き込まれているメモリー周波数を消去することができます。

手順

例：メモリーアドレス番号“A-M1”に記憶されている周波数を消去する場合

- ① * / [ENT] RCL ボタンを押すと表示部の“M”が点灯します。
- ② 数字ボタンの“1”を押したまま、# / [BZ] S.C ボタンを押すとピーというブザー音がして表示部の“M”が点滅に変わり、“A-M1”の周波数は消去されました。
- ③ 表示部の周波数はダイヤル周波数になります。
- ④ B / [DUAL] VFOまたは、# / [BZ] S.C ボタンを押すと、元のダイヤル周波数にもどります。



10 オフセット周波数の設定 [0/OFFSETボタン]

C 500はオフセット周波数を自由にかえてレピーター運用ができます。オフセット周波数は下表の4種類のグループに対してそれぞれ異なったオフセット周波数を設定することができます。

オフセット周波数の設定範囲は0.00MHz~39.995MHzです。

A-VFO、A-CALL A-M0、A-M2……A-M9	グループ1
A-M1	グループ2
B-VFO、B-CALL B-M0、B-M2……B-M9	グループ3
B-M1	グループ4

上記4つのグループの内、設定しようとするVFOまたは、メモリー呼び出し状態にします。(ただし、A-M1または、B-M1にメモリー周波数がメモリーされていない場合は、A-VFO郡(グループ1)または、B-VFO郡(グループ3)のオフセット周波数が書き換えられます。

手順

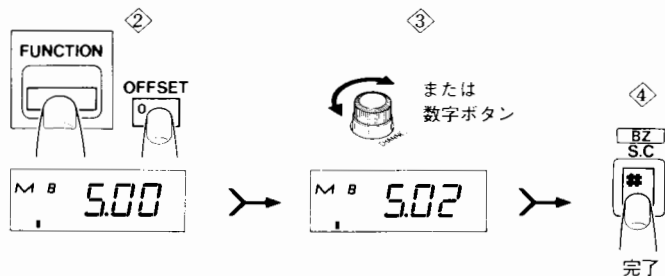
① オフセット周波数を設定しようとしているモードにします。

注意 メモリー呼び出しモードでメモリーアドレス番号が空の場合には、ダイヤル周波数に対して、オフセット周波数が設定されます。

② FUNCTION ボタンを押しながら、0/OFFSET ボタンを押すと現在記憶されているオフセット周波数が表示されます。工場出荷時は、A-VFO には 0.60MHz、B-VFO には 5.00MHz が初期設定されています。

③ ロータリーチャンネルセレクター・ツマミ、または数字ボタンで新しい周波数を設定します。設定終了と同時に、オフセット周波数の書き替えも完了します。

④ 設定終了後、#/[BZ] S.C ボタンを押して、設定する前の状態に復帰させます。



アドバイス

1. オフセット周波数を数字ボタンで入力する場合、最初はMHz台より入力され、3桁入力を終わると書き替えが完了します。



11 スキャン動作

C500には、次のスキャン動作機能があります。

スキャン方式について

C500 はビジースキャン方式と、ポーズスキャン方式を選択することができます。

• ポーズスキャン動作

信号を受信しスキャン動作が一時止まります。
スキャン動作が一時停止してから5秒すると信号を受信していても、再びスキャン動作を開始します。
又信号がなくなるとスキャン動作を開始します。

• ビジースキャン動作

信号を受信している間だけ、スキャン動作が止まります。
信号が無くなってから1.5秒後に再びスキャン動作を開始します。

出荷時はポーズスキャン方式になっています。

1. ダイアル周波数スキャン

- 1) 任意の1MHz帯内をスキャンする1MHzスキャン動作
- 2) バンド内（VHFの場合は2MHz、UHFの場合は10MHz）を全てスキャンするオールスキャン動作
- 3) 指定した周波数内又は周波数外をスキャンするプログラムスキャン動作

2. メモリースキャン

オールメモリースキャン
Aメモリースキャン
Bメモリースキャン

— 通常メモリースキャン
— MSMメモリースキャン

〈SAVE運用時は、セーブメモリースキャン（これは全てのメモリースキャンモードに有効）〉

ダイヤル周波数状態のとき#/[BZ]SCボタンを押すと1MHzスキャン動作になります。（スキャン動作中は、MHz台のドットが点滅します）

C500のスキャン方式は信号が入感するとストップし、信号が無くなると再びスキャンを開始するビジー（BUSY）スキャン方式と、信号が入感していても約5秒後に再びスキャンがスタートするポーズ（PAUSE）スキャン方式を採用しています。

また、スキャン動作は、メモリーアドレス番号“B-M8”にメモリーされている周波数よりスタートし、メモリーアドレス番号“B-M9”にメモリーされている周波数までくると再び“B-M8”の周波数にもどってスキャンを続けるプログラムスキャンをも採用しています。

■ ビジースキャン、ポーズスキャンの切換方法 【3/STEP/SB ボタン】

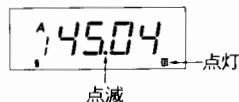
手順

スキャン動作中に 3/STEP/SB ボタンを押すと表示部に **B** が表示され、ビジースキャン動作になります。

もう一度 3/STEP/SB ボタンを押すと **B** 表示が消えポーズスキャン動作になります。

スキャン動作中

STEP/SB



注意 **B** 表示はスキャン動作中にのみ表示されます。

アドバイス

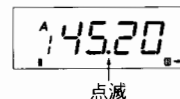
1. スキャン動作中、又はスキャンが一時ストップ中に 1/APO/S▼ボタン、又は 2/SAVE/S▲ボタンを押すと 1 ステップ UP 又は DOWN します。
2. スキャン動作中に 1/APO/S▼ボタンを押すと、低い周波数の方向に 2/SAVE/S▲ボタンを押すと高い周波数の方向に連続してスキャンします。
また、このボタンを 0.5 秒以上押し続けると非常に速いスピードで連続的に周波数が変化します。
3. スキャン動作中に #/ **BZ** SC ボタン、または B/ **DUAL** VFO ボタンを押すとスキャン動作が解除され、ボタンを押した時の周波数が表示されます。

① ダイヤル周波数スキャン動作

1) 1 MHz スキャン動作

ダイヤル周波数状態のとき、#/ **BZ** SC ボタンを押すと表示部に表示されている周波数よりスキャンが開始され、表示されている MHz 内を繰り返しスキャンします。

スキャン動作中は表示部の MHz 台右下のドットが点滅します。



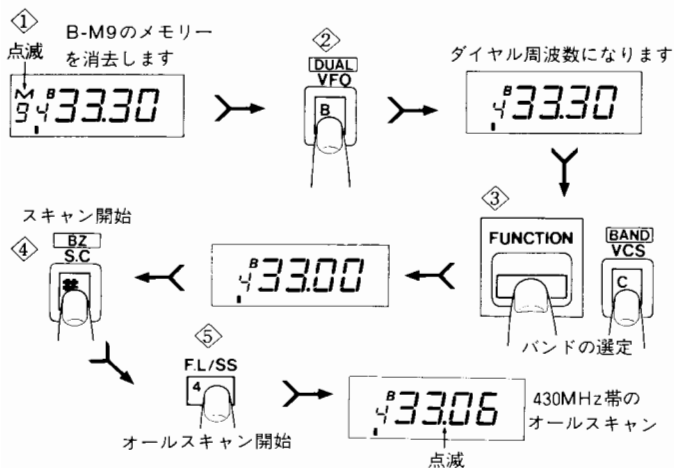
ビジースキャンのとき
点灯します

2) アマチュアバンド内 (VHF の場合は 2 MHz、UHF の場合は 10MHz) を全てスキャンするオールスキャン方法

“B-M8” と “B-M9” のメモリーに同一バンドの周波数がメモリーされていない場合、または一方および両方メモリーが空の場合にオールスキャンが可能となります。

手順

- ◇メモリーアドレス番号“B-M8、B-M9”のメモリー周波数を消去します。メモリー周波数を消去する方法は17 ページを参照してください。
- ◇B/[DUAL] VFO ボタンを押してダイヤル周波数状態にします。
- ◇FUNCTION ボタンを押しながら C/[BAND] VCS ボタンを押して、オールスキャンをさせたいバンドを設定します。
- ◇次に#/[BZ] SC ボタンを押して 1 MHz スキャンを開始させます。
- ◇1 MHz スキャン中に 4/FL/SS のボタンを押すとボタンを押した時に表示されていた周波数よりオールスキャンを開始します。



アドバイス

1. オールスキャン中に再び 4/FL/SS ボタンを押すと、ボタンを押した時に表示されていた周波数より 1 MHz スキャンを開始します。
2. 1 MHz スキャンとオールスキャン動作は、表示部に識別表示していませんが、1/APO/S▼ボタン又は 2/SAVE/S▲ボタンより早送りをして確認することができます。
3. スキャン動作を一度解除して（電源 OFF では解除になりません）再び #/[BZ] SC ボタンを押してスキャンを開始すると、常に 1 MHz スキャン動作となります。

3) 指定した周波数内又は周波数外をスキャンさせるプログラムスキャン

プログラムスキャンはメモリーアドレス番号“B-M8”にメモリーされた次の周波数よりスタートし、メモリーアドレス番号“B-M9”にメモリーされた周波数で再びメモリーアドレス番号“B-M8”の周波数に戻り、繰り返しスキャン動作を行います。

■指定した周波数内をスキャンさせる場合

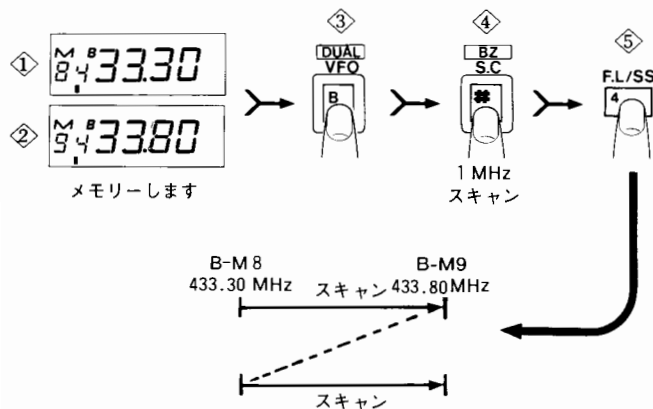
“B-M8”にスタート周波数を（低い周波数に設定します）“B-M9”にエンド周波数を（高い周波数に設定します）メモリーしてください。

この場合“B-M8”と“B-M9”の周波数は同一バンドでメモリーしてください。

手順

“B-M8”に433.30MHzを“B-M9”に433.80MHzをそれぞれメモリーしてプログラムスキャンを行なう場合。

- ①メモリーアドレス番号“B-M8”に433.30MHzをメモリーします。
- ②メモリーアドレス番号“B-M9”に433.80MHzをメモリーします。
- ③B/[DUAL] VFO ボタンを押してダイヤル周波数状態にします。
- ④#/ [BZ] SC ボタンを押して1 MHz スキャンを開始させます。
- ⑤1 MHz スキャン中に4/FL/SS ボタンを押すとプログラムスキャンを開始します。



アドバイス

A、B どちらかの VFO で 1 MHz スキャンを行なってもプログラムスキャンは“B-M8”と“B-M9”にメモリーされている周波数によって行なわれます。

プログラムスキャン中に4/FL/SS ボタンを押すと、プログラムスキャンが解除され、ボタンを押したときに表示されている周波数より1 MHz スキャンが開始されます。

■指定した周波数外をスキャンする場合

“B-M8”にスタート周波数（高い周波数に設定します）を“B-M9”にエンド周波数（低い周波数に設定します）をメモリーしてください。

この場合“B-M8”と“B-M9”の周波数は同一バンドでメモリーしてください。

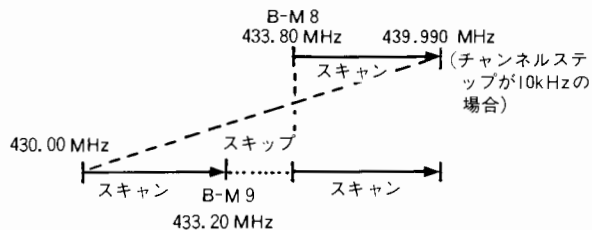
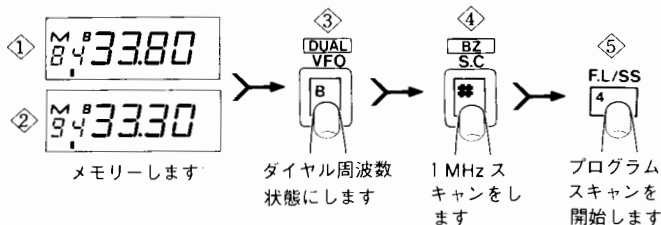
手順

“433.30MHz から433.80MHz 間以外ををスキャンする場合

- ①メモリーアドレス番号“B-M8”に433.80MHzをメモリーします。
- ②メモリーアドレス番号“B-M9”に433.30MHzにメモリーします。
- ③B/[DUAL] VFO ボタンを押してダイヤル状態にします。
- ④次に#/ [BZ] SC ボタンを押して1 MHz スキャンを開始させます。

- ④ 1 MHz スキャン中に 4/FL/SS ボタンを押すとプログラムスキャンを開始します。

この場合、A、B どちらの VFO で 1 MHz スキャンを行なってもプログラムスキャンは“B-M8”と“B-M9”にメモリーされている周波数によって行なわれます。



② メモリースキャン動作

C 500は多彩なメモリースキャン機能を持ち、次のスキャン機能を選択することができます。

さらに、SAVE 運用時には、それぞれセーブメモリースキャンが可能となり、セーブタイマー(周期)に従って、メモリーを順次間欠受信します。

1) 通常メモリースキャン動作

D/ [MSM] M.S ボタンを押すとワンタッチでメモリースキャン動作になります。

メモリースキャンはメモリーアドレス番号の UP 方向に、メモリーされているアドレス番号のみスキャンし、メモリーされていないアドレス番号はスキップします。

■ A メモリースキャン (又は B メモリースキャン)

手順

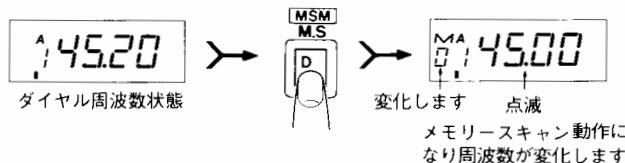
- ④ A/ [DUP] A.B ボタンを押すと、A-VFO、B-VFO が切り換えり表示部に“A”又は“B”が表示されます。

メモリースキャンを行なう側を設定します。

- ④ D/ [MSM] M.S ボタンを押すと、A-VFO メモリースキャン (又は B-VFO メモリースキャン) が開始し、表示部の MHz 台右下のドット (スキャンインジケータ) が点滅します。

- ④ メモリースキャン中に再び D/ [MSM] M.S ボタンを押すとメモリースキャンが解除され、ボタンを押した時のメモリーでメモリー呼び出し状態となります。

再度 D/ [MSM] M.S ボタンを押すと次のメモリーよりメモリースキャンを開始します。

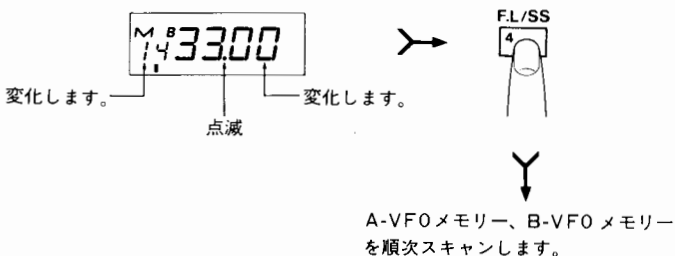


■ オールメモリスキャン

A-VFO および、B-VFO にメモリーされている周波数をすべてスキャンします。

手順

- ◇メモリスキャン中に 4/FL/SS ボタンを押すと、オールメモリスキャン動作になり、最大20メモリーをワッチすることができます。
- ◇再び 4/FL/SS ボタンを押すと、ボタンを押した時のメモリーより A-VFO メモリスキャン（又は B-VFO メモリスキャン）になります。



アドバイス

1. メモリスキャンを一度解除（電源 OFF では解除になりません）してから、再度メモリスキャンを開始すると常に A-VFO メモリスキャン（又は B-VFO メモリスキャン）動作となります。
2. メモリスキャン中に 2/SAVE/S▲ボタンを押すと、次のメモリーアドレスに UP しますが、1/APO/S▼ボタンを押しても DOWN しません。

2) メモリー周波数の中から優先的にスキャンさせる

MSM（メモリスキャン・メモリ）スキャン動作

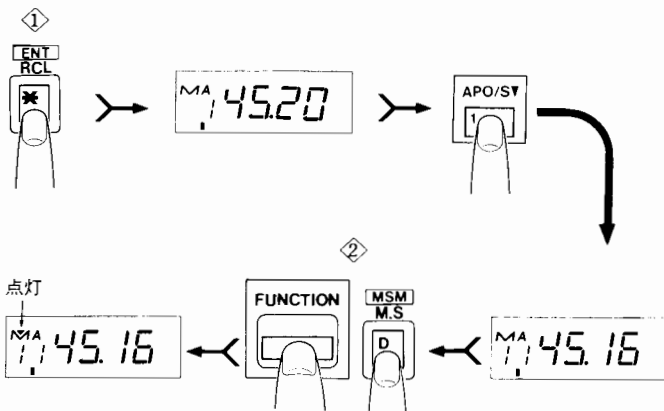
メモリー周波数の中の任意の周波数を指定し、指定した周波数を優先的にスキャンする機能です。

- ◇メモリー呼び出しの時は、表示部の“M”の上に“▼”が点灯し MSM 周波数を表わします。
 - ◇メモリー呼び出し以外の時は表示部の“▼”のみが点灯し MSM スキャン予約状態であることを表わします。
- MSM スキャンをさせる場合は予め、各メモリーアドレス番号に MSM を設定しておいてください。

MSM 周波数設定方法

手順

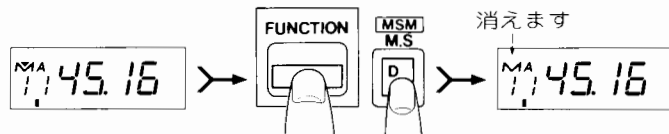
- ◇ * / [ENT] RCL ボタンを押し、次に数字ボタンを押して MSM を設定したいメモリー周波数呼び出し状態にします。
- ◇ FUNCTION ボタンを押しながら、D / [MSM] M.S ボタンを押します。
- ◇ 表示部の“M”の上に“▼”が点灯し、MSM 周波数としてメモリーされました。
- ◇ 順次メモリー周波数を呼び出し、同じ方法で MSM 周波数としてメモリーしてください。



MSM 周波数消去方法

手順

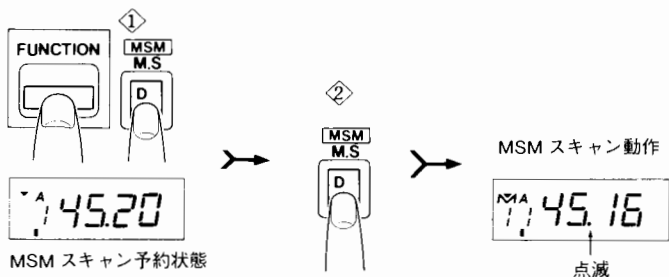
- ◇ 消去させたい MSM 周波数を呼び出し、FUNCTION ボタンを押しながら D / [MSM] M.S ボタンを押してください。
- ◇ 表示部の“M”の上“▼”が消えます。



1 MSM スキャン方法 I

手順

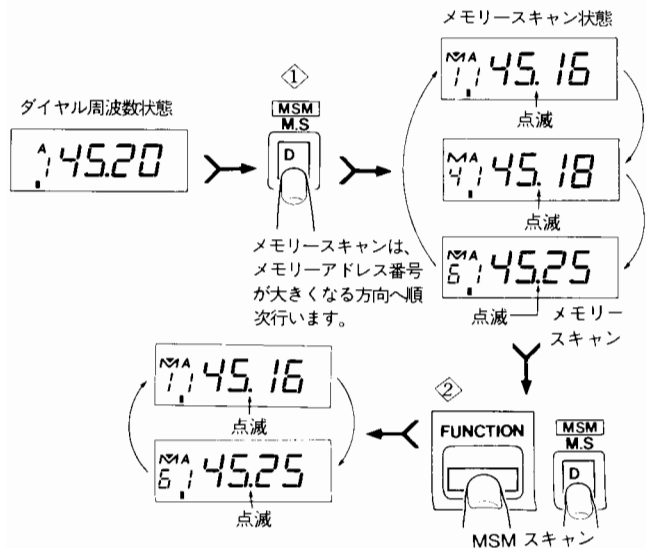
- ◇ FUNCTION ボタンを押しながら D / [MSM] MS ボタンを押すと表示部に“▼”が点灯し MSM スキャン予約状態になります。
- ◇ MSM スキャン予約状態で D / [MSM] MS ボタンを押して、メモリスキャンをさせると MSM スキャン動作になります。



2 MSM スキャン方法Ⅱ

手順

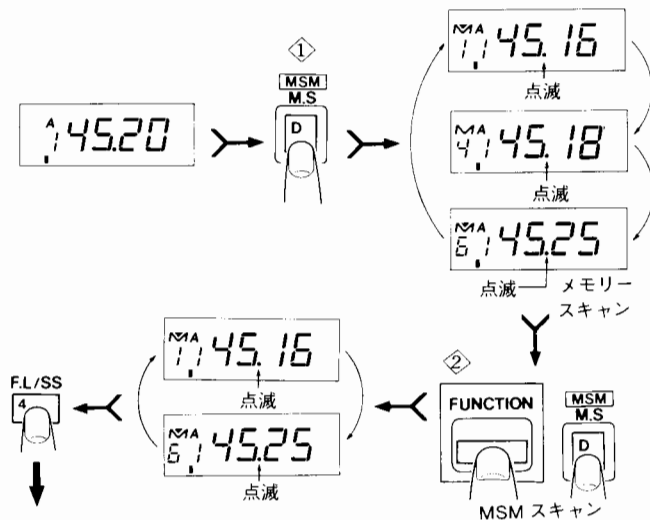
- ① D/ [MSM] M.S ボタンを押してメモリスキャン動作にします。
- ② メモリスキャン中に FUNCTION ボタンを押しながら D/ [M.SM] M.S ボタンを押すと、MSM スキャン動作になります。
- ③ MSM スキャン中に再び FUNCTION ボタンを押しながら D/ [MSM] M.S ボタンを押すと、MSM スキャン動作が解除され、メモリスキャン動作になります。



注意 メモリスキャンは、メモリアドレスが増加する方向へ順次スキャンします。

3 オール MSM スキャン動作

MSM スキャン動作中に 4/FL/SS ボタンを押すと、A メモリー、B メモリー全ての MSM メモリーを順次スキャンします。再び 4/FL/SS ボタンを押すと、ボタンを押した時のメモリーで A メモリスキャン (又は B メモリスキャン) を開始します。



B-VFO で設定されている MSM 周波数もスキャンします

12 デュアルワッチ機能 [B/DUAL VFOボタン]

本機は次のデュアルワッチ動作をします。

1. メモリー周波数“A-M 1”又は“B-M 1”とダイヤル周波数
2. メモリー周波数“A-M0、A-M2…A-M9、B-M0、B-M2…B-M 9”の一つとダイヤル周波数
3. 呼び出し周波数とダイヤル周波数
4. メモリースキャンの周波数（又はMSMスキャンの周波数）とダイヤル周波数

アドバイス

1. デュアルワッチ動作中は表示部に“DUAL”が表示されます。
2. デュアルワッチ動作中は、ダイヤル周波数のみ変更できません。
3. デュアルワッチ時は、約3秒に1回（瞬間）メモリー周波数又は呼び出し周波数を受信し、その周波数を瞬時表示します。

4. メモリー周波数又は呼び出し周波数の信号を受信すると、信号を受信している間だけ、デュアルワッチ動作が一時とまります。
5. デュアルワッチ動作中、ダイヤル周波数で信号を受信すると受信音が途切れて聞こえますが故障ではありません。
6. デュアルワッチ動作中、SQL ツマミを反時計方向に回し切るとメモリー周波数でデュアルワッチ動作が停止します。

注意

・デュアルワッチ動作中に送信しますとダイヤル周波数で送信状態になります。

メモリー周波数を受信している時に PTT ボタンを押すとダイヤル周波数表示になり、ダイヤル周波数で送信します。

手をはなすと再びデュアルワッチ動作になります。

・メモリー周波数で呼び出しがあったときは、デュアルワッチ動作を解除してメモリーアドレス番号を呼び出した後、交信してください。

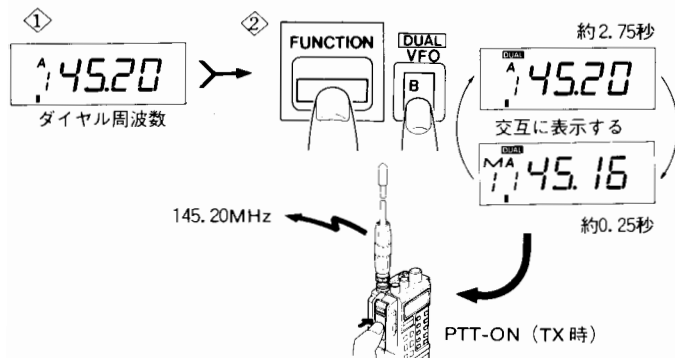
- ① メモリーアドレス番号“A-M1”または“B-M1”とのデュアルワッチ動作

メモリーアドレス番号“A-M1”または“B-M1”とダイヤル周波数とでデュアルワッチ動作をします。

手順

①ダイヤル周波数状態にします。

②FUNCTION ボタンを押しながらB/[DUAL] VFO ボタンを押すと表示部に“DUAL”が表示され、デュアルワッチ動作になります。



注意 メモリーアドレス番号“A-M1”または“B-M1”に周波数がメモリーされていないときはブーというブザー音がしてデュアルワッチ動作になりません。

- ② 任意のメモリー周波数又は呼び出し周波数とのデュアルワッチ動作

メモリー周波数“A-M0、A-M2・A-M9、B-M0、B-M2・B-M9”の1つと又は呼び出し周波数とダイヤル周波数とで、デュアルワッチ動作をします。

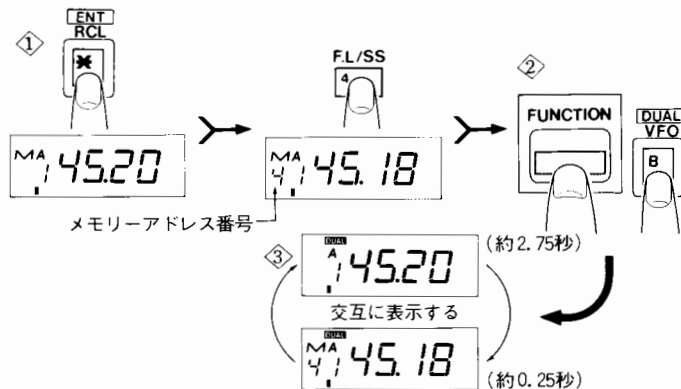
手順

①デュアルワッチを行なうメモリー周波数を呼び出します。

(又は呼び出し周波数をCALL ボタンで呼び出します)

②FUNCTION ボタンを押しながら、B/[DUAL] VFO ボタンを押すと表示部に“DUAL”が表示され、デュアルワッチ動作をします。

③表示部にダイヤル周波数とメモリー周波数(又は呼び出し周波数)が交互に表示され、デュアルワッチ動作が確認できます。



③ メモリスキャンの周波数とのデュアルワッチ動作

メモリスキャンの周波数又は MSM スキャンの周波数とダイヤル周波数とでデュアルワッチ動作をします。

この場合、A-VFO メモリスキャン又は B-VFO メモリスキャンの周波数を順次 1 波ずつダイヤル周波数とデュアルワッチ動作をします。

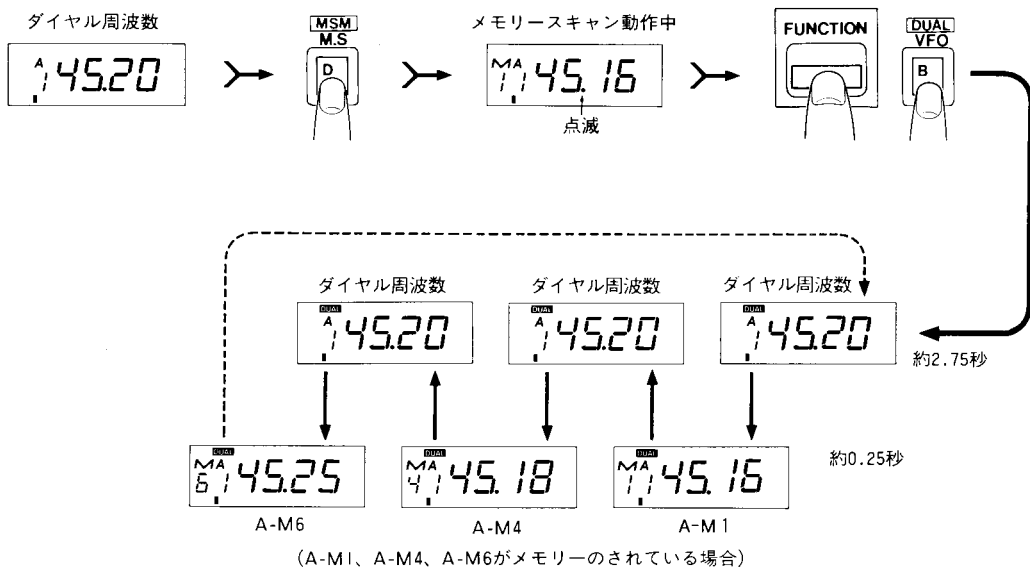
最大10波の周波数とデュアルワッチ動作が可能となります。

手順

①メモリスキャン状態にします。

(オールメモリスキャンとのデュアルワッチはできません)

②FUNCTION ボタンを押しながら B/ [DUAL] VFO ボタンを押すと表示部に“DUAL”が表示され、メモリー周波数を順次 1 波ずつ、ダイヤル周波数とデュアルワッチ動作をします。



13 デュプレックス交信機能 [A/DUP A・Bボタン]

C500は下記の一対の周波数の間でたすきがけ交信が可能です。
この場合、一対の周波数が異なるバンド（VHFとUHF）の場合には、自動的にフルデュプレックスとなり、電話のように送信しながら受信することが可能です。

①A-VFOとB-VFO

例：145.20MHzと433.20MHz

②A-VFOとB-VFOの呼び出し周波数

呼び出し周波数 例：145.00MHzと433.00MHz

③A-VFOのメモリー周波数とB-VFOのメモリー周波数

（同一メモリーアドレス番号同志のデュプレックス動作になります。）

例：A-M1 145.16MHz

B-M1 433.20MHz

注意 フルデュプレックス運用のとき次のことに注意してください。

A-VFO(送信側)をVFO帯の周波数にした場合に、B-VFO(受信側)の周波数をA-VFOの3倍した周波数近くには、設定しないでください。

例. A-VFO 145.02MHz B-VFO 435.06MHz

このようなときは、ハウリングを生じます。

デュプレックス動作をする時は、イヤホン又はヘッドセットのご使用をおすすめします。(ハウリングをおこすためです)

手順

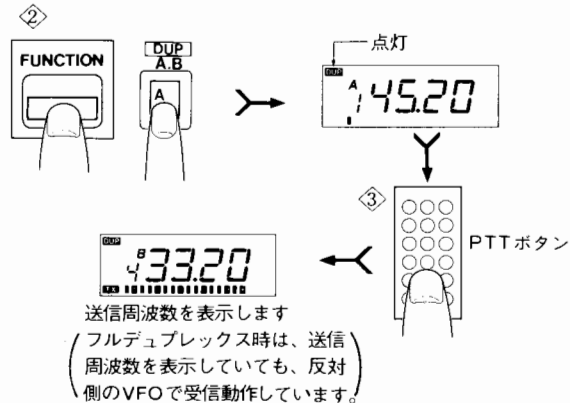
①デュプレックス交信を行なう場合の受信する周波数を設定します。

②FUNCTION ボタンを押しながら、A/[DUP] A・B ボタンを押すと表示部に“DUP”が表示され、デュプレックス交信が可能となります。

③PTT ボタンを押すと対の周波数の一方が送信周波数として表示され、送信状態になります。

（送信時は表示部に“TX”が表示され、C500 上部のLEDランプが点灯して送信状態であることを表わします）

①の場合による例



アドバイス

デュプレックス運用時、A/[DUP] A・B ボタンは、送受信周波数を入れ換えるボタンとして働きます。

14 オートパワーオフ機能 [1/APO/S▼ボタン]

電源スイッチの切り忘れによる電池の消耗を防ぐオートパワーオフ機能です。

オートパワーオフ機能はキーボタン操作、PTT ボタン操作、スケルチ OFF ボタンのいずれかが操作された後、又はスケルチが ON になってから30分スケルチが開くことなく放置されるとピッピッピッピッピッと警告音を発し、表示部の“APO”が点滅して注意を促します。

警告音が出された後1分間放置されると無線機は自動的に電源スイッチがほぼ OFF の状態になり、消費電流を約 4 mA とし、電池の消耗をセーブします。(スリープスタンバイ状態)

電源スイッチがほぼ OFF の状態になると周波数表示が消え、周波数が表示される所に“APO”と表示されます。

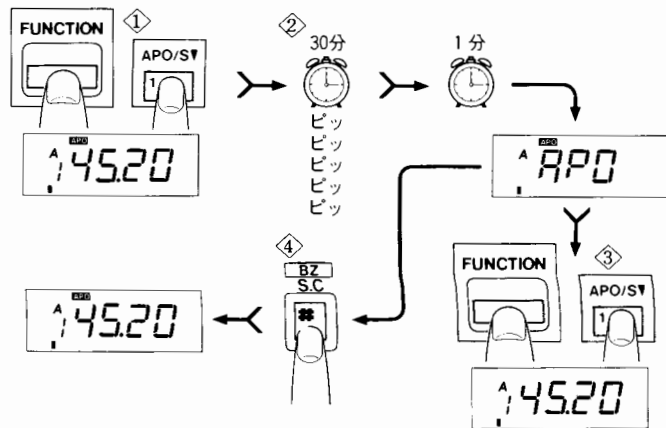
注意

1. 周波数が表示される所に“APO”が表示されているときは、送受信回路が動作していませんので送受信しません。
2. オートパワーオフ機能で最小限に電池の消耗を押えることができますが、電源スイッチはこまめに ON、OFF してください。

手順

- ①FUNCTION ボタンを押しながら 1/APO/S▼ボタンを押すと表示部の“APO”が点灯し、オートパワーオフ機能が働いていることを表わします。
- ②30分経過するとピッピッピッピッピッと音がし表示部の“APO”が点滅します。さらに1分経過すると周波数表示部に“APO”が表示されます。
- ③このとき、FUNCTION ボタンを押しながら 1/APO/S▼ボタンを押すと、オートパワーオフ機能およびスタンバイ状態が解除されます。
- ④周波数表示部に“APO”が表示されているときに#/BZ SC ボタンを押すと、電源スイッチがほぼ OFF の状態が解除されます。

(オートパワーオフ機能はそのまま継続されます)



15 バッテリーセーブ機能 [2/SAVE/S▲ボタン]

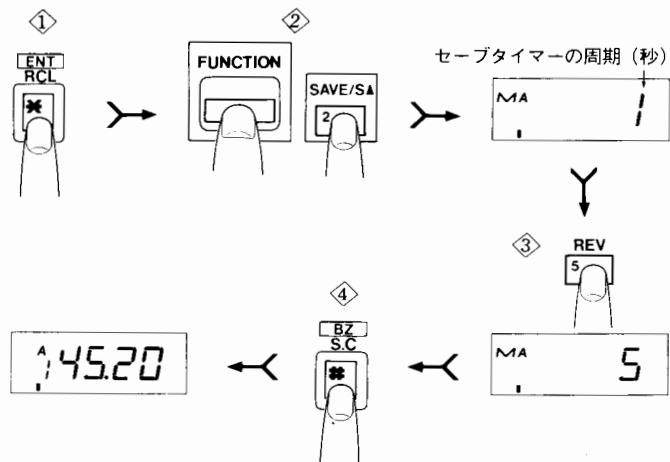
セーブタイマーの周期に従い、受信待受動作をし、受信待受時の消費電流をセーブする機能です。

セーブタイマーは9通り、選択することができます。

セーブタイマーの設定方法

手順

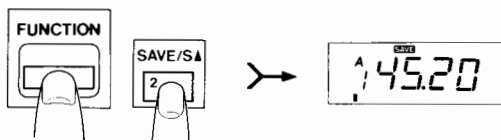
- ① * / [ENT] RCL ボタンを押します。
- ② 次に FUNCTION ボタンを押しながら 2 / SAVE / S▲ ボタンを押すと、表示部の周波数表示が消え、1ケタの数字が表われます。
この数字がセーブタイマーの周期を表わし、例えば、5の場合は約5秒に1回無線機が間欠動作することになります。
- ③ 希望するセーブタイマー周期を数字ボタンを押して入力します。
(数字の1～9ボタン)
入力と同時に設定が完了します。
- ④ 設定後、# / [BZ] SC ボタンを押して、設定する前の状態に復帰させます。



バッテリーセーブ動作をさせる方法

手順

- ◇FUNCTION ボタンを押しながら 2 /SAVE/S▲ボタンを押すと表示部に“SAVE”が表示され、バッテリーセーブ動作になります。



- ◇もう一度 FUNCTION ボタンを押しながら 2 /SAVE/S▲ボタンを押すと表示部の“SAVE”が消え、バッテリーセーブ機能が解除されます

アドバイス

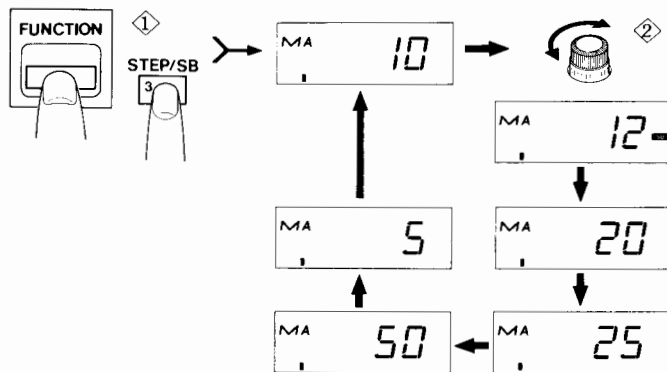
VFO スキャン中、VCS 動作中および DUAL 動作中は表示部に“SAVE”が表示されていても、バッテリーセーブ動作は一時保留されていますので、セーブ機能は働きません。

16 チャンネルステップ切り換え機能 [3/STEP/SBボタン]

チャンネルステップを 5 KHz、10KHz、12.5KHz、20KHz、25KHz、50KHzの 6 段階に切り替える機能です。
用途に合ったチャンネルステップに選んで下さい。

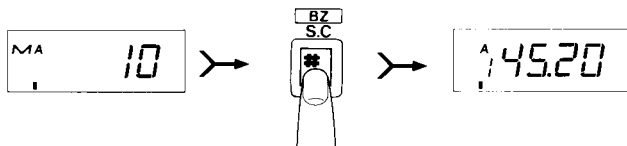
手順

- ◇FUNCTION ボタンを押しながら 3 /STEP/SB ボタンを押すと表示部の周波数表示が消え、チャンネルステップが表示されます。
- ◇ロータリーチャンネルセクターツマミを回すと、チャンネルステップが順次表示されます。



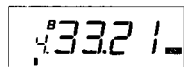
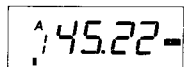
◇チャンネルステップを設定後、#/[BZ] SC ボタンを押します。

設定する前の状態に復帰します。



アドバイス

12.5KHz ステップのときは周波数表示部右側に KHz 台が表示されます。



17 PTTボタン操作を無効にする機能 [6/PTT.Lボタン]

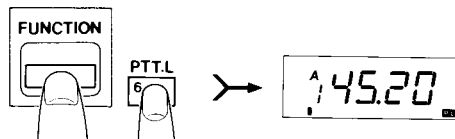
PTT ボタン操作を無効にする機能で“PTT ボタン”を押しても送信状態になりません。

手順

◇FUNCTION ボタンを押しながら、6/PTT.L ボタンを押すと表示部に“P.L”が表示され、PTT ボタンを押しても送信状態になりません。

◇もう一度 FUNCTION ボタンを押しながら 6/PTT.L ボタンを押すと解除されます。

各操作に関係なく PTT ロック機能が有効です。

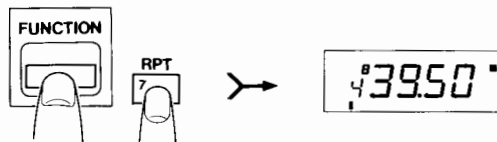


18 レピーター機能 [7/RPTボタン]

レピーター運用と通常（シンプレックス）運用を切換えるボタンです。

手順

- ◇C500をレピーター局の周波数に合わせます。
- ◇FUNCTION ボタンを押しながら7/RPT ボタンを押すと表示部に“日”（又は“田”）が表示されレピーター動作を表わします。
（このとき88.5Hz内蔵トーンが自動的に動作します）
- ◇再びFUNCTION ボタンを押しながら7/RPT ボタンを押すと表示部の“日”（又は“田”）が消え、通常運用に切りかわります。



アドバイス

- C500 はレピーター運用時の送信オフセット周波数（シフト幅）が A-VFO では 600KHz, B-VFO では 5MHz が初期設定されています。
- レピーター機能の設定は A、BVFO にそれぞれ別々に設定できます。

注意

C500の送信周波数は受信周波数に対してシフト幅だけ減算又は加算された周波数になります。
送信周波数がアマチュアバンドを逸脱した場合C500の周波数表示部には“OFF”が表示され、送信状態になりません。アマチュアバンドを逸脱しないように再設定してください。

19 **+**/**-** シフト切り換え 【8/**+**/**-**ボタン】

通常のレピーター運用は、オフセット周波数 5 MHz、トーン周波数 88.5 Hz で送信周波数を 5 MHz マイナス方向にシフトして行ないますが、送信周波数を 5 MHz プラス方向にシフトして行なうこともできます。

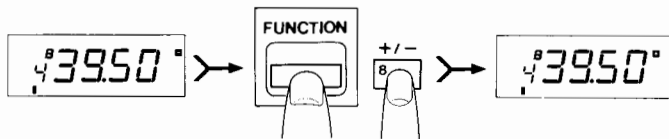
田方向にシフトさせるか日方向にシフトさせるかの切換えをこのボタンで行ないます。

手順

① C 500 をレピーター運用状態に設定します。

② FUNCTION ボタンを押しながら 8 / **+**/**-** ボタンをくり返し押すと表示部に“田”、“日”が交互に表示されます。

通常は日にしておいてください。



注意 レピーター運用時以外は田/日シフト切換え機能はブーというブザー音がして働きません。

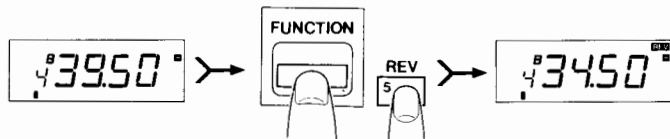
20 レピーター運用時に送受信 周波数を入れ換える機能 【5/REVボタン】

レピーター運用時に送受信周波数を入れ換えて、相手局の直接波をチェックすることができます。

手順

① C 500 をレピーター運用状態に設定します。

② FUNCTION ボタンを押しながら 5 / REV ボタンを押すと表示部に“REV”が表示され、表示周波数が送受信反転します。



③ 再び FUNCTION ボタンを押しながら、5 / REV ボタンを押すと表示部の“REV”が消え表示周波数が送受信反転し最初のレピーター運用状態にもどります。

注意 レピーター運用時以外は上記の操作はブーというブザー音がして、働きません。
レピーター運用状態で送信周波数が“OFF”の場合も同様に働きません。

21 周波数ロック機能 【4/F.L/SSボタン】

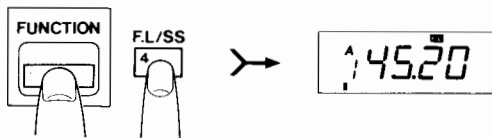
交信中の操作ミス及び携帯時に運用動作モードが変化しないようにする機能です。

スキャン運用時、デュアルワッチ運用時にも、ロック機能が働き、誤操作を防ぎます。

手順

①FUNCTION ボタンを押しながら 4 /F.L/SS ボタンを押すと表示部に“F.L”が表示され、ロック機能が働いていることを表わします。

②もう一度 FUNCTION ボタンを押しながら 4 /F.L/SS ボタンを押すと表示部の“F.L”が消え、ロック機能が解除されます。



22 トーンスケルチコントロール 機能 【9/T.SQLボタン】

☆通常運用のとき

別売りのトーンスケルチユニット（CTN500）を実装してトーンスケルチ（CTCSS）運用を行う時この機能を使います。

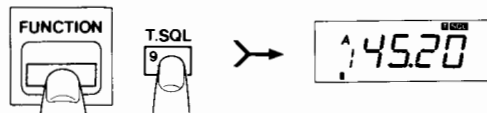
- 注意**
- 同一トーンの周波数局同士の交信はできますが、異なった周波数の局との交信又はトーン運用ができない無線機との交信はできません。トーンスケルチ運用のときは予めトーン周波数をメモリーしておいてください。
 - C500では、トーンスケルチユニットが1個しか装着できませんので、フルデュプレックス交信に於いては、送信側のみ有効となります。その為、受信側に **T** **SQL** の表示があっても無効になります。（エンコーダー動作となる。）

①トーンスケルチ運用切り換え（レピーター運用をしない時）

手順

①FUNCTION ボタンを押しながら 9 /T.SQL ボタンを押すと表示部に“TSQL”が表示され、トーンスケルチ運用になります。

②もう一度 FUNCTION ボタンを押しながら 9 /T.SQL ボタンを押すと表示部の“TSQL”が消えトーンスケルチ運用が解除されます。



アドバイス

A、B VFO にそれぞれ別々に設定することができます。

☆レピーター運用のとき

レピーター運用におけるトーンエンコーダー運用とトーンスケルチ運用の切換えを行います。

② トーンエンコーダー／トーンスケルチ運用の切換え

手順

①レピーター運用状態にします。(内蔵88.5Hz トーン)

②FUNCTION ボタンを押しながら 9 /T.SQL ボタンを押すと表示部に“T”が表示されトーンエンコーダー運用になります。

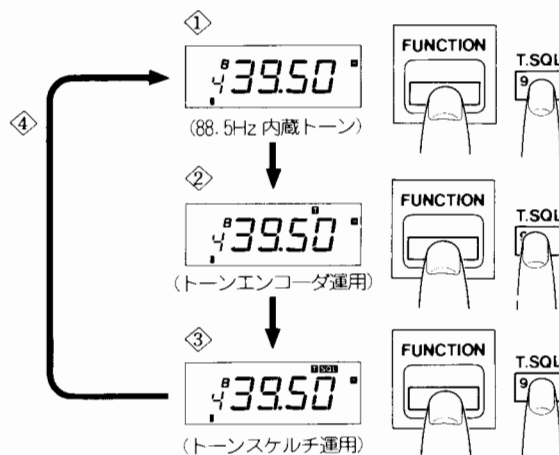
(88.5Hz 以外のトーン周波数にも設定できます)

③更に、FUNCTION ボタンを押しながら 9 /T.SQL ボタンを押すと“T”の外に“SQL”も表示され、トーンスケルチ(CTCSS)運用ができます。

④もう一度 FUNCTION ボタンを押しながら 9 /T.SQL ボタンを押すと表示部の“T”“SQL”が消え、内蔵の88.5Hz トーンが働きます。

アドバイス

上記のレピーター運用モードは、A、B-VFOそれぞれ別々に設定することができます。更にA-M 1、B-M 1 メモリーは単独でレピーター運用モードをメモリーすることができます。トーン周波数のメモリーは、右表の4グループに設定できます。



トーンメモリーグループ	運用モード	レピーター運用しない時	レピーター運用する時
①	A-VFO、A-CALL A-M0、A-M2…A-M9	①グループトーンメモリー	①グループトーンメモリー
②	A-M1	①グループトーンメモリー	②グループトーンメモリー(独立)
③	B-VFO、B-CALL B-M0、B-M2…B-M9	③グループトーンメモリー	③グループトーンメモリー
④	B-M1	③グループトーンメモリー	④グループトーンメモリー(独立)

レピーター運用しない時は、①、③のトーンメモリーグループが設定できます。

レピーター運用する時は、①、②、③、④のトーンメモリーグループが設定できます。

注意 表示部の **T** **SQL** はCTN500が実装されていなくても表示されます。

③ トーンエンコーダー／トーンスケルチ周波数の設定

トーン運用時のトーン周波数はマイコンに予めメモリーされた37種類から選び出し、記憶回路にメモリーしてください。

トーン周波数一覧表			
(単位 Hz)			
67.0	100.0	141.3	203.5
71.9	103.5	146.2	210.7
74.4	107.2	151.4	218.1
77.0	110.9	156.7	225.7
79.7	114.8	162.2	233.6
82.5	118.8	167.9	241.8
85.4	123.0	173.8	250.3
88.5	127.3	179.9	
91.5	131.8	186.2	
94.8	136.5	192.8	

手順

① トーン周波数を設定しようとする VFO または、メモリー呼び出しモードにします。

さらにレピーター運用をするか、しないかを設定します。(先のトーンメモリーグループ表を参考にしてください。)

また、A-M1、B-M1 が空メモリーの際は A-VFO グループ (①グループトーンメモリー)、B-VFO グループ (③グループトーンメモリー) が書き換えられます。

② * / [ENT] RCL ボタンを押すと表示部に “M” が点灯します。

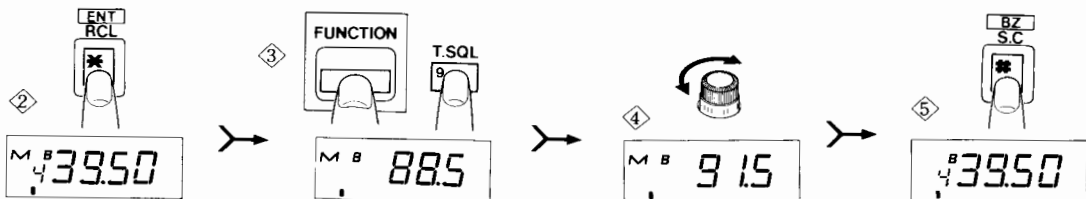
③ FUNCTION ボタンを押しながら 9 / T.SQL ボタンを押すと表示部の周波数表示が消え、トーン周波数の “88.5” が表示されます。

(初期状態では88.5Hz に設定されています)

④ ローターリーチャンネルセレクトーツマミを回してトーン周波数を設定します。

設定終了と同時にトーン周波数のメモリーの書替えも完了します。

⑤ 設定終了後 # / [BZ] SC ボタンを押して設定する前の状態に復帰させます。



23 ブザー音を消す機能 【#/BZ S.Cボタン】

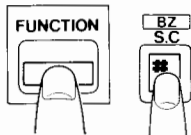
マイコンへのボタン動作をブザー音で知らせます。

- ピー音 …………… 正しく操作が完了した時
- ピッピッピッピッピッ …… オートパワーオフ機能動作時
- ブー音 …………… 正しく操作されない時
- ピッ音 …………… 各操作ボタンが正しく操作された時

手順

⇨FUNCTION ボタンを押しながら # / **BZ** S.C ボタンを押すと、ブザー音が消えます。

⇨もう一度 FUNCTION ボタンを押しながら # / **BZ** S.C ボタンを押すとブザー音を消す機能が解除されブザー音がします。



注意

1. 表示部にはなにも表示されませんので、操作ボタンを押してブザー音がしないことを確認してください。
2. APO 動作時のピッピッピッピッピッ音を消すことはできません。


24 空きチャンネルを自動的に探し出すVCS機能 【C/BAND VCSボタン】


頻度の高い空きチャンネル探しからの QSY 操作を容易にした機能です。


ダイヤル周波数状態（又はメモリー呼び出し状態）から、VCS 動作にすると、使用されていない周波数（空きチャンネル）を自動的に探しその使用されていない周波数を表示部に表示します。


また、C / **BAND** VCS ボタンを押す前の周波数で送受信したり、使用されていない周波数で送受信したりできます。使用されていない周波数を以後空きチャンネルと称します。

VCS 動作時の表示は下記のような意味を持っています。




 ……新しい周波数で運用できます

 ……元の周波数で運用できます

 ……表示部に表示されている周波数と運用周波数が異なります
点滅

 ……空きチャンネルサーチ中
点滅 点滅

アドバイス

1. VCS 動作中の # /  S.C ボタンの働き
空きチャンネルサーチ中は # /  S.C ボタンを押すと VCS を行なう前の状態にもどります。
その他の VCS 動作時に、# /  S.C ボタンを押すと VCS 機能が解除され、その時の運用周波数状態になります。
2. 空きチャンネルのサーチ範囲は JARL 制定のバンドプランに従って行なわれます。
3. VCS 動作中は、数字ボタンにより新しい周波数を任意に設定することができますが、元の周波数は変更することができません。

交信中の周波数を変更する場合の手順例

144.80MHz を他の周波数に変更する場合

A 局

① 144.80MHz (ダイヤル周波数状態)



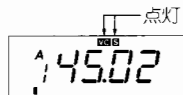
② ダイヤル周波数状態からC/BAND VCS ボタンを押すと空きチャンネルをさがし出し表示します。



③ PTT ボタンを押してB局に145.02MHzに QSY するように話します。
(送受信周波数は144.80MHzです)



④ C/BAND VCS ボタンを押すと表示周波数で送受信します。



B 局

① 144.80MHz (ダイヤル周波数状態)



② 144.80MHzで交信します。

ロータリーチャンネルセレクトーツマミ又は数字ボタンで145.02MHzにします。



145.02MHz



A 局

④の状態の時# / [BZ] S.C ボタンを押すと145.02MHzでVFOモード運用になり、145.02MHzを基本に再度VCS動作ができます)

再び他の周波数に変更する場合は

⑤ ⑥局に元の周波数 (144.80MHz) に戻るよう指示し、C / [BAND] VCS ボタンを押します。

⑥ # / [BZ] S.C ボタンを押して VCS 動作を解除します。表示部は元の144.80MHz になります。(ダイヤル周波数状態)



⑦ ダイヤル周波数状態から VCS 動作にすると、自動的に空きチャンネルを見つけ出し、表示します。

STEP ③ に戻ります。

B 局



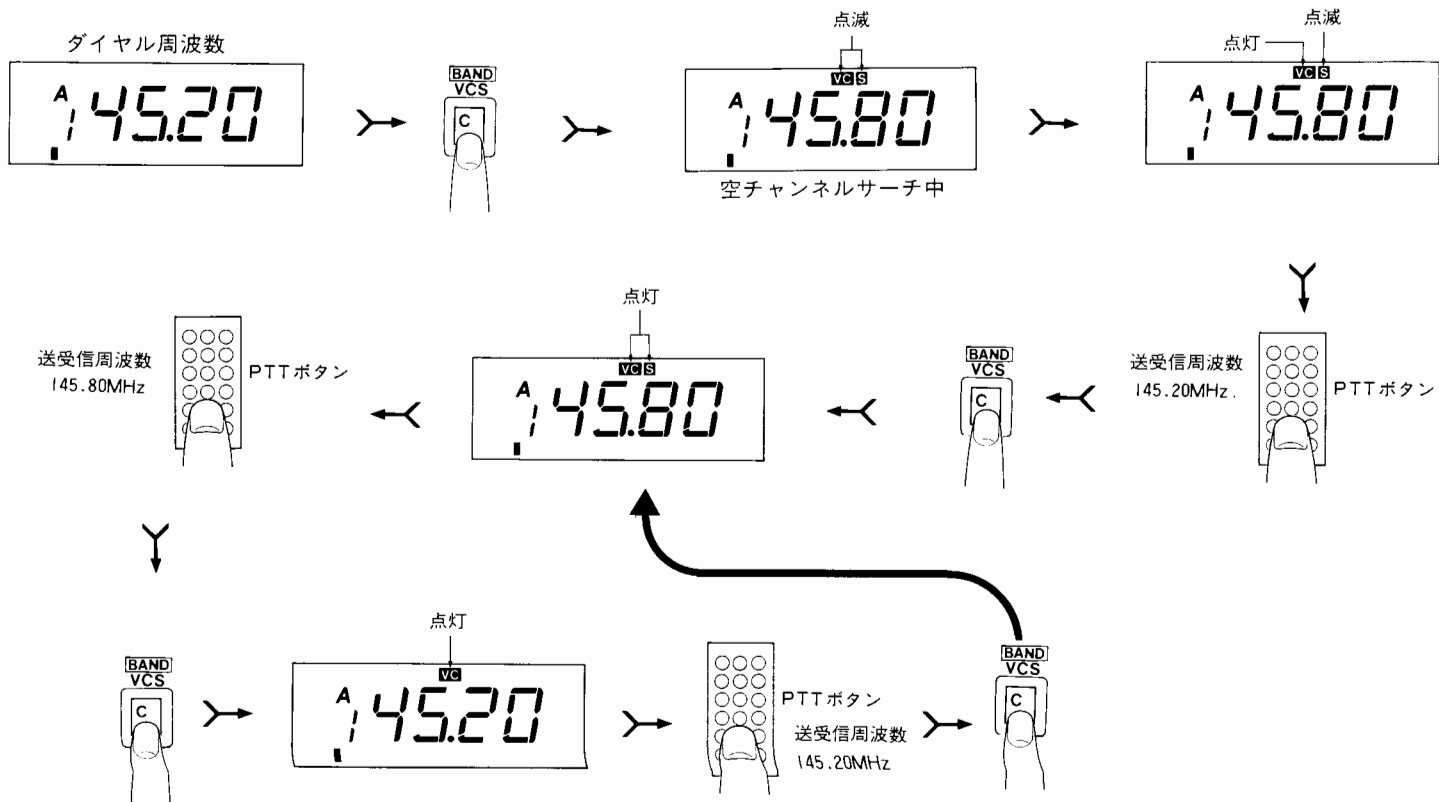
③ 144.80MHz にします。

ロータリーチャンネルセレクターツマミ又は数字ボタンで144.80MHz にします。



STEP②に戻ります。

動作例を図にしております。



レピーター運用

①レピーター運用について

無線交信をレピーター局（無線中継局）を介して行うことをいいます。

レピーター運用はレピーター局が開設されている地域でできますので、レピーター局の送受信周波数を各専門紙などで調べてください。

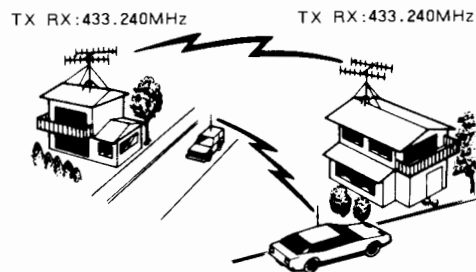
②レピーター運用の特色

●レピーター局を介して送信と受信を異なった周波数で交信しますので、送受信周波数をシフトする機能をもった無線機が必要です。

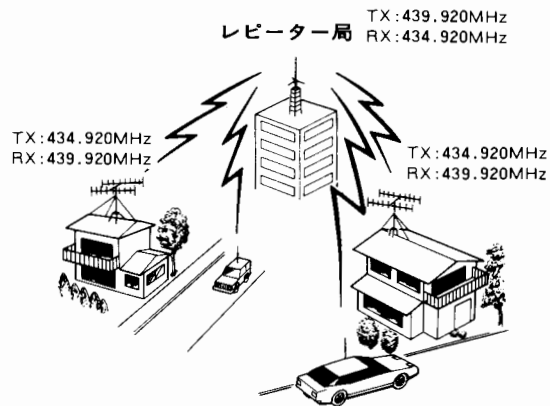
また、レピーター局を駆動するトーンエコーダーが内蔵されていることが必要です。C500にはレピーター局を駆動する88.5Hz（固定）が組み込まれていますので、レピーター運用がそのままできます。

●レピーター運用はレピーター局を介して交信を行いますので、小電力のトランシーバーで遠くの局との交信が可能になります。ハイパワーで運用しますと同じ周波数関係のレピーター局をアクセスしますので、C500はLOW PWRポジションでの運用をおすすめします。

従来の運用（430MHz帯の例）

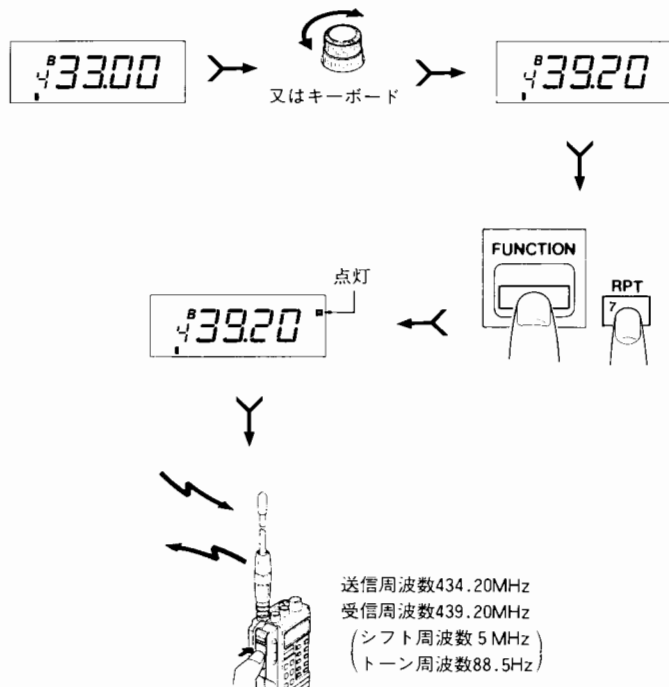


レピーター運用（430MHz帯の例）



③レピーター運用手順

1. B-VFOにします。
2. お近くのレピーター局の周波数に合せます。
3. FUNCTIONボタンを押しながらRPT/7のボタンを押すと、表示部にBの文字が点灯し、レピーター運用状態を表します。
4. トーン周波数88.5Hz、シフト周波数5MHzのレピーター運用ができます。

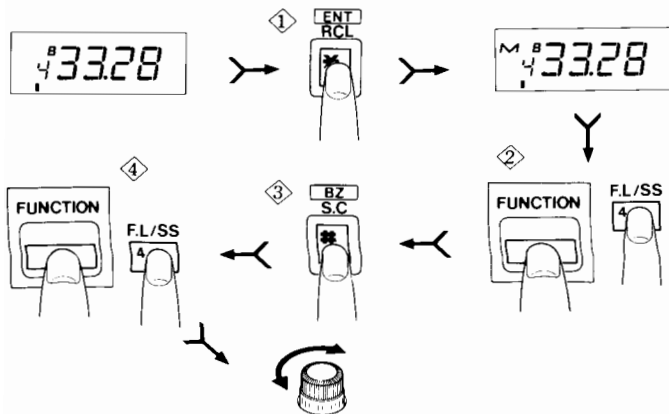


便利な使い方

- ①周波数ロック状態の時でもロータリーチャンネルセクター・ツマミを動作させることができます。

手順

- ① * /ENT RCLボタンを押します。
(表示部にMが点灯します)
 - ② FUNCTIONボタンを押しながらFL/SS/4押します。
(ブーと言う音がしますが操作の間違いではありません)
 - ③ # /BZ S.Cボタンを押します。
 - ④ FUNCTIONボタンを押しながらFL/SS/4押します。
(周波数ロック動作にします)
- ロータリーチャンネルセクターツマミで周波数を変えることができます。
- この動作を解除するには、① から④までを繰り返してください。



- ②セミデュプレックスとフルデュプレックスを切り換えることができます。

出荷時にはフルデュプレックスモードになっています。

手順

- ① FUNCTIONボタンを押しながらRPT/7のボタンを押してレピーター運用状態にします。
- ② * /ENT RCLボタンを押します。
- ③ FUNCTIONボタンを押しながら、8/+/- のボタンを押します。
(ブーと言う音がしますが操作の間違いではありません)
- ④ # /BZ S.Cボタンを押します。
この動作を解除するには、1～3までを繰り返してください。

各部の名称と動作

- ① **PWR/VOL (電源スイッチ/音量調節つまみ)**
電源の ON、OFF と音量を調節するつまみです。
つまみを時計方向に回すにしたがって音量が大きくなります。
音量調節は SQL OFF ボタンを押しながら行ってください。
又は“SQL つまみ”を反時計方向に回し切って行ってください。

- ② **SQL (スケルチつまみ)**
FM 特有のザーという雑音を消すつまみです。
つまみを反時計方向に回すとザーという音がします。またつまみを時計方向に回すとザーという音が消えます。
スケルチつまみの調節はザーという音がしている所からゆっくり時計方向に回してゆき、ザーという音が消えたところで止めてください。

- 注意** SQL つまみは時計方向に回しすぎると弱い信号が受信できなくなります。
スキャン動作、デュアルワッチ動作、セーブ動作を行なう時はザーという音が聞こえない位置にしておいてください。
SQL つまみ調節は、使用していない周波数で行なってください。

- ③ **TX (送信ランプ/バッテリーインジケーター)**
送信状態になると赤く点灯します。電池がなくなってくると、暗くなってきますので、お早目に電池を交換してください。

- ④ **CH (ロータリーチャンネルセレクトーツまみ)**
送受信周波数の変更、トーン周波数の変更、チャンネルステップの変更、メモリアドレス番号の変更に使用するつまみです。
このつまみを時計方向に回すと周波数等が高くなり、反時計方向に回すと周波数等が低くなります。
チャンネルステップは 5 KHz、10KHz、12.5KHz、20KHz、25KHz、50KHz の中から 1 つ任意に設定できます。

- ⑤ **前面操作部ボタン**
前面操作部には各種動作ボタンがあります。
くわしくは 9 ページ、“前面操作ボタンの働き”を参照してください。

- ⑥ **LOW PWR (送信出力切り換えボタン)**
送信出力を 2 段階に切り換えるボタンです。
このボタンを押すとローパワー送信 (0.4W) になり、もう一度押すとハイパワー送信になります。
近距離通信の時はローパワー送信 (0.4W) での運用をお勧めします。

⑦ RF.ATT (RF アッテネーターボタン)

受信感度を下げるボタンです。

FOX ハンティングの時など受信感度を下げたいとき、このボタンを押してください。約20dB 受信感度を下げることができます。

注意 このボタンが押されていると、弱い信号を受信できません。

⑧ SPKR (外部スピーカー端子)

当社別売り品、マイク & スピーカー (CMP111) 又は PTT 付ヘッドセット (CHP111) 用端子です。

負荷抵抗 8 オームのスピーカー又はイヤホーンを接続し外部スピーカーとして使用できます。

この端子にプラグを入れると、内蔵スピーカーからの音はできません。

⑨ MIC (外部マイクロホン端子)

当社別売り品マイク & スピーカー (CMP111) 又は PTT 付ヘッドセット (CHP111) 用端子です。

⑩ ANT (付属アンテナ接続端子)

付属のフレキシブルアンテナを接続する、BNC コネクターです。

付属のフレキシブルアンテナは操作手順の⑩の図のように正しくしっかり取りつけてください。

⑪ FUNCTION (ファンクションボタン)

各種の特別機能動作を行なわせるときに、このボタンを押しながら操作ボタン又は数字ボタンを押してください。

⑫ PTT (PTT ボタン)

送信と受信を切り換えるボタンです。

送信状態にするときはこのボタンを押しながらマイクロホンに向かって話してください。

受信状態にするときは、このボタンから手を離してください。

当社別売り品 PTT 付ヘッドセット (CHP111) を使用した場合は、当社別売り品 PTT 付ヘッドセット (CHP111) の PTT ボタンを押してください。

⑬ LAMP (ランプボタン)

ランプボタンを押している間、表示部がランプによって照明されます。

⑭ SQL OFF (スケルチオフボタン)

スケルチ動作を解除するボタンです。

このボタンを押している間だけ、スケルチツマミを反時計方向に回し切ったときと同じ動作をします。

15 表示部 表示部はつぎの内容を表示します。



表示部のメーター部分は受信時には入力信号強度“S”メーターとして動作します。

送信時は POWER メーターとして動作し、HIGH POWER 時は、フルスケール表示になり、LOW POWER 時は **81118** の間の表示になります。

16 RESET (リセットボタン)

マイコンが誤動作したとき、又はリチウム電池を交換したとき、マイコンを初期状態に戻すボタンです。電源スイッチを ON にしてリセットボタンを先の細い非金属棒で軽く押してください。(51 ページ参照)

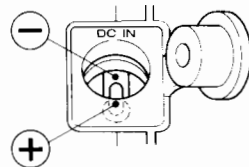
17 DC IN (外部電源接続端子)

外部電源を使って本機を使用する場合、この端子より電圧を加えます。

当社別売品の外部電源接続専用コード CAW120B を使用し電池以外の電源で使用できます。

注意

1. 接続専用コードの抜き差しは、必ず電源スイッチを OFF にして行なってください。
2. 本機の動作電圧範囲は DC5.5V から DC16V です。動作電圧範囲以外の電圧は決して加えないでください。
3. 電極 (+) には十分注意してください。



CAW120 を用いてシガーライターから本機に電源を供給している時、本機を使用しない場合は、必ず本機の電源を OFF にしてください。エンジンキーを抜くと本機のバッテリーから電源が供給され、本機のバッテリーが消耗しますのでご注意ください。

18 電池ケース

単三電池を 6 本入れる電池ケースです。

使用できる電池は SUM-3 マンガン電池 (1.5V) と充電式ニッケルカドミウム電池 (1.2V) です。

注意

- 使用する電池は 6 本共新しいものを使用してください。
- 又は 6 本共同じ消耗度の電池を使用してください。

19 ロックボタン

電池ケースを固定するボタンです。

電池ケースを外すときは、このボタンを上押ししながら電池ケースを取り外してください。

リチウム電池について

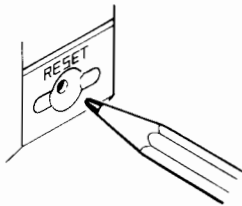
C500には、マイコンのバックアップ電源として、リチウム電池を内蔵し、電源スイッチを OFF にしても記憶回路にメモリーされた内容を記憶しています。

使用頻度によっても異なりますがリチウム電池を一度交換すると、約5年間使用できます。

アドバイス

※リチウム電池が消耗してくると、電源スイッチを ON にした時、表示部に周波数等が正しく表示されません。このような時は、お早目にリチウム電池を交換してください。

※リチウム電池を交換した時は、C500の電源スイッチを ON にし、側面にあるリセットボタンを先の細い非金属棒で軽く押してください。



注意 ※リチウム電池を交換するときは、必ず専用のリチウム電池をお使いください。またリチウム電池の交換及び点検は、必ず、お買い上げいただいた販売店あるいは、当社営業所、サービスセンターで行ってください。

※使用後のリチウム電池は、火の中に絶対投げ捨てないでください。

運用にあたって

• 144MHz/430MHz 帯使用区分

144MHz/430MHz 帯においては、52ページに示されているバンド使用区分が JARL（日本アマチュア無線連盟）によって制定されていますので、この使用区分にそった運用をお願いいたします。運用の際には使用電波のルールや習慣に十分注意し無用のトラブルが生じないようにご配慮ください。

• JARL 制定「アマチュア・バンド使用区分」

（昭和60年4月1日一部改正）

1. 電波型式の表示方法（定義）

- (1)A1電波は、「CW」とする。
- (2)A2、A3、A9（抑圧搬送波両側波帯に限る）電波は、「AM」とする。
- (3)A3A、A3J、A3H電波は、「SSB」とする。
- (4)A5、A5C、A9（テレビ電波に限る）及びA9C電波は、「TV」とする。
- (5)F1電波は、「RTTY（Ryと略記する）」とする。
- (6)F2電波のうち、モールス符号を用いる電信によるものは「FM」、テレタイプによるものは「RTTY（Ryと略記する）」とし、後者については使用区分表の脚注にその周波数帯を明示する。
- (7)F3電波は、「FM」とする。
- (8)F4電波のうち、占有周波数帯幅が40kHz以下のものは「FAX（Fxと略記する）」とする。但し、FM系によるものについては使用区分表の脚注にその周波数帯を明示する。

(9) F 5 電波のうち、占有周波数帯幅が40kHz 以下のものは「SSTV (Sv と略記する)」とする。但し、FM 系によるものについては使用区分表の脚注にその周波数帯を明示する。

(10) 上記の電波にその他の電波を加えたものを、「全電波型式」とする。

2. () 内の電波型式

使用区分のうち () 内の電波型式については、これと併記された電波型式による通信に混信を与えないことが明らかな場合に限り使用できるものとする。

3. 表示周波数

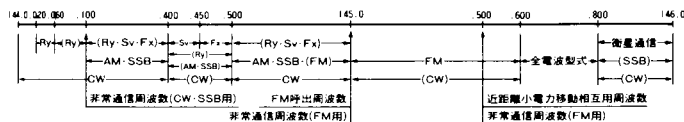
(1) 非常通信、ビーコン、FM 呼出、及び近距離小電力移動相互用の各表示周波数は、搬送波周波数とする。

(2) (1) 以外の表示周波数は、電波の使用区分の境界を表わしており、電波の占有周波数帯幅の上限または下限とする。

4. FM 呼出周波数における非常通信

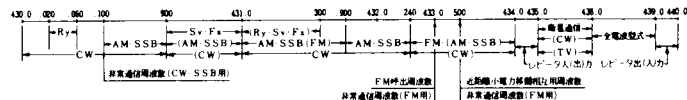
連絡設定後は他の周波数に移り非常通信を行なうこととする。

JARL 制定 144 MHz 帯使用区分



- (注1) 144.000MHz～144.020MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
 (注2) 144.000MHz～144.200MHzの周波数帯は、主として遠距離通信に使用する。
 (注3) 144.500MHz～145.600MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
 (注4) FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、144.500MHz～145.000MHz及び全電波型式の周波数帯を使用する。

JARL 制定 430 MHz 帯使用区分



- (注1) 431.900MHz～432.240MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
 (注2) 431.000MHz～431.900MHz及び432.240MHz～434.500MHzの各周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
 (注3) レピータ用入出力周波数は、別に定める。
 (注4) FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、431.000MHz～431.300MHz及び全電波型式の周波数帯を使用する。

故障とお考えになる前に

サービスを依頼されるまえに、ご面倒ですが、次のことをお調べください。

下記の項目をチェックしてなおらない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの日本マランツ(株)各営業所、または当社サービスセンターにご相談ください。

🔊 周波数表示が点滅する

PLL 回路の動作が一時的にアンロック (UNLOCK) すると、表示部全体が点滅します。

🔋 電池が消耗したとき、あるいは、リチウム電池が消耗したときになりますので、電池、あるいは、リチウム電池を交換してください。

🔊 周波数表示が正しく表示されない。

リチウム電池を交換したとき、およびマイコンが誤動作したとき、周波数表示が正しく表示されないことがあります。

🔧 非金属性の先の細いもので、本機側面のリセットボタンを軽く押ししてください。

リセットボタンを押す時は、本機の電源スイッチを ON にしておいてください。

🔋 電源スイッチを ON、OFF する毎に、周波数表示がおかしくなる。

🔋 リチウム電池を交換してください。

🔊 信号を受信しない

🔊 SQL OFF ボタンを押してスピーカーから音がすることを確認してください。

スケルチツマミが時計方向に回し切ってありませんか。

🔊 スケルチツマミを反時計方向に戻してください。

トーンスケルチ動作になっていませんか。

🔊 トーンスケルチ動作を解除してください。

VOL ツマミが反時計方向に回し切っていませんか。

🔊 VOL ツマミを時計方向に回し、適当な音量に調節してください。

🔊 強い信号しか受信しない

上面操作部の RF ATT. ボタンが押されていませんか。

🔊 RF ATT. ボタンを押し、元にもどしてください。

付属のアンテナが正しく取り付けられていますか。

🔊 付属のアンテナを正しく、取り付けてください。

スケルチツマミが時計方向に回し切っていると弱い信号を受信できません。

🔊 スケルチツマミを反時計方向に戻してください。

🔊 送信しない

PTT ボタンを押したとき、TX インジケータ (LED) が消えていますか。

🔋 新しい電池に交換してください。

表示部に “P.L” が点灯していませんか。

🔊 FUNCTION ボタンを押しながら 6 / PTT.L ボタンを押して PTT ロック動作を解除してください。

定格

表示されている周波数で送信しない。

表示部に **VC** **S** の **S** が点滅していませんか。

C / **BAND** **VCS** ボタンを押して、**VC** **S** の **S** を点灯にかえてください。

周波数を変えられない。

表示部に **F.L** が点灯していませんか。

FUNCTION ボタンを押しながら **4/FL/SS** ボタンを押して周波数ロック動作を解除してください。

メモリー呼び出し動作が途中になっていませんか。

/ **BZ** **SC** ボタンを押してください。

ブザー音がしない。

ブザー音がしない動作になっています。

FUNCTION ボタンを押しながら、**#** / **BZ** **S.C** ボタンを押して、ブザー音がしない動作を解除してください。

本機側面のリセットスイッチを押しても、周波数表示が正しく表示されない。

マイコンをバックアップしている、リチウム電池が消耗しています。

お買い上げになった販売店または、当社サービスセンターで交換してください。

1. 一般仕様

送・受信周波数 VHF 144~145.995MHz
UHF 430~439.995MHz
(5kHzステップ時)

電波型式 F3
マイクインピーダンス 600Ω
スピーカーインピーダンス 8Ω
アンテナインピーダンス 50Ω
電源方式 定格9V(ニッカド電池又はSUM-3×6本)
動作電圧範囲 5.5~16V
消費電流.....送信時

Hi-約750mA 2.5W時 (VHF)
約900mA 2.5W時 (UHF)
約1000mA 5.0W時 (VHF)
約1300mA 5.0W時 (UHF)
Low-約350mA (VHF)
約400mA (UHF)

受信時 約150mA
無信号時 約35mA (VHF)
約40mA (UHF)
バッテリーセーブ時 (3:1) 約10mA (VHF)
約12mA (UHF)

寸法(突起物を除く) ... 173mm(高さ)×60mm(幅)×34mm(奥行き)
重量 490g(電池、アンテナ含む)

2. 受信部

受信方式 ダブルスーパーヘテロダイ
中間周波数 1st IF 55.05MHz
VHF-アッパーヘテロダイ
UHF-ローアヘテロダイ
2nd IF 455kHz

受信感度 12dB SINAD -10dB (*-16dBμ)
入力1μV時のS/N30dB以上
通過帯域幅 ±7kHz(-6dB)
選択度 -60dB
スケルチ感度 -14dB(*-20dBμ)
低周波出力 400mW(8Ω10%歪)
(*JAJA測定法による)

3. 送信部
- | | |
|---------|-------------------------|
| 送信出力 | Hi 3.5W (VHF CNB111使用時) |
| | 3.0W (UHF CNB111使用時) |
| | CNB120使用時 5W 以上 |
| | Low-400mW |
| スプリアス比 | -60dB 以上 |
| 最大周波数偏移 | ±5KHz |
| 変調方式 | リアクタンス変調 |

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
保証書は「販売店印・保証期間」をご確認のうえ、販売店からお受取りいただき、よくお読みの上大切に保存してください。
2. 保証期間はご購入日より1年間です。
正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の際は、ご購入販売店または弊社営業所で保証書記載事項に基づき、「無償修理」いたします。
3. 保証期間経過後の修理
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 補修用部品の詳細・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、ご購入販売店または別紙の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。

申請書の書き方

本機によるアマチュア無線局の申請には、市販の申請書に下記事項を記入し、間違いのないことを確認して申請してください。

〔工事設計書〕

区 分		第 1 送信機	第 2 送信機	
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		F、144MHz帯 430MHz帯	MHz帯	
変調の方式		リアクタンス変調		
終 段 管	名称 個数	144MHz帯 S-AV12×1 430MHz帯 S-AU14×1	V	
	電圧 入力	144MHz帯 (9V 6W) 430MHz帯 (9V 7W)	V	W
送信空中線の型式				
その他工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している		

※C500は JARL 登録機種ですので、送信機系統図の記入を省略することができます。

送信機系統図の欄には C500とご記入ください。

※登録番号 S 48

第 1 送信機系統図

※送信機型名 C500 (日本マランツ)

S 48

日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

ご注意：お問合せは日本マランツ(株)各営業所で承っております
ので全国営業所一覧をご覧ください。